

## 国文学演習（5） a・b

阿部一彦

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

井原西鶴の武家物、『武道伝来記』を講読する。

<前期>

『武道伝来記』の巻三の三から精読していく。同時にこの作品の研究史も調査・検討する。

<後期>

引き続き『武道伝来記』を読んでいくが、戦国時代の武将のエピソード集『武辺咄集』との関わりにも留意していきたい。

### 【授業計画】

受講者が分担して演習形式で読み進める。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

武道伝来記（岩波文庫）

## 国文学演習（7） a・b

都築久義

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

近代作家の著名な作品を毎回とりあげて講義する。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

平常の学習態度

### 【テキスト】

毎時決める

## 国文学演習（8） a・b

増井典夫

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

母語としての日本語の歴史。

近現代日本語の諸問題。

国語学界、言語学界に対して問題提起を行ってきた小松英雄、田中克彦の著作を読み、分析し、国語学研究の現状をとらえることから始める。

そこから近現代日本語の様々な問題の考察に進んでいく。

### 【授業計画】

前期は、講義形式であるが、受講者の理解を確かめつつ進める。

その後は院生に調査発表させる。

### 【評価方法】

レポートその他による。

### 【テキスト】

徒然草抜書（小松英雄 講談社学術文庫）

言語学とは何か（田中克彦 岩波新書）

その他は授業時の指示による。

## 国文学特講（2） a・b

久保朝孝

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

平安時代を範囲とし、おもに物語・日記文学を対象とする。中古文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成したい。

### 【授業計画】

『伊勢物語』中の任意の章段について、新解釈を提示することを、毎回の課題とする。

初めの数回を研究状況の把握にあてる。以後各回、担当者の報告、質疑応答、批判討論及び助言を行う。

### 【評価方法】

出席、報告、発言及びレポートを総合する。

### 【テキスト】

自由。

## 国文学特講（3） a・b

岩下紀之

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

文明期連歌を講義する。  
書陵部蔵賦物連歌を使用。  
テキストは連歌興行時の原本であるので、百韻の懐紙の書式、故実、等々、連歌一般につき講ずる。

### 【授業計画】

院生に調査発表させる。

### 【評価方法】

日常の研究発表によって評価する。

### 【テキスト】

こちらで用意する。

## 国文学特講（4） a・b

山下宏明

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

〈文学研究と批評〉と題して講義し、あわせてその応用として、時代やジャンルを越えて論文や作品について研究の方法を考え、その批評を考える。  
入学者は、すでに学部において各自の専攻を有し、論文をも執筆している。それぞれの成果が、現在の学界において、いかなる位置を占め、いかなる意味があるかを考えるべきである。そのためには、文学研究の方法を、たえず批評史の課題として相対化しなければならない。自己の狭い専攻分野にとどまることなく、広く学界の動向の把握を欠いてはならない。そのための研究や批評の錬磨に努めねばならない。たえず歴史的な展望が必要である。言い古されたことながら、広い視野と鋭い問題意識を持つことが必要である。こうしたことを課題としながら、院生の一人一人の課題に即しつつ進める。必要に応じて批評史の展望をも概説し参考に供する予定である。

### 【授業計画】

前期には、まず各自の、これまでの研究経過の報告を求め、あわせて、その研究史上の位置や意味を考えさせる。必要に応じて、批評の方法を指導する。  
後期には、各分野の注目すべき論文や著書を紹介し、読解を行う。時に、具体的な作品を取り上げ、その読解をも平行して行う。

### 【評価方法】

出席状況と、各期のレポートにより判定する。

### 【テキスト】

最低の必読文献として次のものがある。  
T・イーグルトン『文学とは何か』岩波書店  
大橋洋一『新文学入門』岩波書店  
前田愛『文学テキスト入門』筑摩書房  
大江健三郎『新しい文学のために』岩波新書  
ジェラルド・ジュネット『物語のディスコース』風の薔薇社  
その他、各種学会誌の論文コピー

## 国文学特講 (6) a・b

小倉 斉

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

＜漱石を読むー『彼岸過迄』から『行人』へー＞

1999年度「国文学演習(6)」において「朝日文芸欄」を読みながら1910年代初頭の文学および文化状況の一端に触れたことを踏まえつつ、漱石の『彼岸過迄』『行人』を取り上げる。本間久雄は「文壇一年の回顧」(「国民新聞」明治44・12・27～29)において、明治44年という年を「局面変換の時」と位置づけ、前半までは「自然主義の天下」、後半は多種多様の傾向・試みの「勃興」の年だとした。そうした時代のうねりの中で漱石はいかなる方法を試みたのか。当時のコンテキストに即しつつ、『彼岸過迄』『行人』を精読することで明らかにしたい。

### 【授業計画】

＜前期＞

- 1 1910年前後の文壇的課題(2回)
- 2 『彼岸過迄』研究の現在(2回)
- 3 『彼岸過迄』精読(10回)

＜後期＞

- 1 1910年前後の鷗外(2回)
- 2 『行人』研究の現在(2回)
- 3 『行人』精読(10回)

### 【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

彼岸過迄(夏目漱石 新潮文庫)

行人(夏目漱石 新潮文庫)

※ 可能な限り初出本文を参照する。

## 特殊研究(1) 国文学特論 a

渡部泰明

集中 1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

古代・中世の和歌文学において、風景表現はどのような意味で「心」の表現でありえたのか。『古今集』から玉葉・風雅までの主要歌人の、いわゆる「叙景歌」を中心に、その意義について史的に展望する。

### 【授業計画】

- 第1回 「叙景(歌)」概念の問題点
- 第2～3回 古今集歌人における「見立て」
- 第4～5回 曾禰好忠の身体表現
- 第6回 源経信の晴の歌
- 第7回 源俊頼の実験
- 第8～9回 西行の境界性
- 第10～11回 新古今歌人の重層表現
- 第12回 京極派歌人の遠近法

### 【評価方法】

出席状況と課題(レポート)による。

課題：平安・中世和歌における風景表現の意義について、具体的な歌人・作品に焦点をしばりながら、和歌史の展開をふまえつつ論じる。

### 【テキスト】

とくにテキストは指定せず、当方でプリントを配布する予定なので、各自ファイル等を用意されたい。

### 【参考書籍】

『【うた】をよむー三十一字の詩学ー』

(小林幸夫ほか著 三省堂)

『中世和歌の生成』(渡部泰明著 若草書房)

## 特殊研究（1）国文学特論 b

松井健児

集中 1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

『源氏物語』研究における、1950年代以降を検討する。細分化する研究状況のなかにあつて、自律的に研究を進めるための歴史認識を、受講者とともに探ってゆきたい。

### 【授業計画】

『源氏物語』研究史の検討

『源氏物語』研究方法の検討

### 【評価方法】

出席 討論への参加状況

### 【テキスト】

日本文学研究論文集成 源氏物語1（若草書房）

### 【参考書籍】

夢の浮橋（ハルオ・シラネ著 中央公論社）

源氏物語をどう読むか（解釈と鑑賞別冊 至文堂）

源氏物語をく読む（物語研究会編 若草書房）

源氏研究5号（翰林書房）

解釈と鑑賞1983年7月号（至文堂）

## 特殊研究（2）日本古典書誌学 I a・b

藤井隆

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

日本の古典を研究する者で、古典の原資料（近世やそれ以前の写本、刊本など）を調査し、研究や発表をしない者は少ないであろう。その場合、原資料の紙質、装訂、文字筆跡、印刷などに関する知識が必要不可欠となる。しかるに担当者の不足によってか、歴史分野の古文書学に比して、大学や院での開講が少なく、殆ど個人個人の自己努力で補なっている場合が多い。勿論その深い到達は個々の努力となるものであるが、本講義においては、その基礎を会得してもらおうとするものである。

### 【授業計画】

○近世史での書誌学的作業と研究

○書籍の料紙

・書籍の起源と材料の変遷

・原料による紙の種類、年代

・加工による紙の種類、年代

染色加工紙。加工漉造紙。切紙加工紙。

金、銀、雲母、胡粉も加工紙。その他の加工紙。

・金銀加工布

○書籍の形状

・装訂の種類。

・書籍の大きさ。

・書籍の形状に関する部分名称。

○書籍の内容

・書籍の内容に関する種類と用語。

・写本の内容に関する種類と用語。

○刊本

・刊本の種類と名称。

・刊本の歴史。

以上、テキストにより講義を進めるが、殆ど実物を手にさせて理解できるようにする。出来れば装訂の糸綴や修理の実習もやりたい。これは少数の院ではないと不可能であるから。

### 【評価方法】

学生の希望も参考にして、レポート、テスト、その外決定する。

### 【テキスト】

日本古典書誌学総説（藤井隆著 和泉書院）

## 特殊研究（4）中国文学 I a・b

寺尾 剛

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

過去2年間は白居易（楽天）の新樂府五十首を読んできた。本年度は受講者の希望に応じて適宜幅広く読んでゆくことにしたい。漢文読解能力・文献調査能力の向上に重点を置く。

### 【授業計画】

「史記」「漢書」「白氏文集」「蒙求」など、あるいは日本漢文（「菅家文章」「本朝文粹」など）でもよい。

### 【評価方法】

平常点及びレポート

### 【テキスト】

プリント及び授業中に指示

下記の科目は、本年度開講しません。

国文学演習 (1) a・b

特殊研究 (3) 日本古典書誌学Ⅱ a・b

国文学演習 (2) a・b  
久保朝孝

特殊研究 (5) 中国文学Ⅱ a・b

国文学演習 (3) a・b  
岩下紀之

国文学演習 (4) a・b  
山下宏明

国文学演習 (6) a・b  
小倉 斉

国文学特講 (1) a・b

国文学特講 (5) a・b  
阿部一彦

国文学特講 (7) a・b  
都築久義

国文学特講 (8) a・b  
増井典夫

## 英文学演習Ⅱ a・b

大野光子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

アイルランド民衆詩と現代詩との関係を探り、文学的伝統の本質を明らかにすることを目標に、*An Duanaire 1600-1900: Poems of the Dispossessed*収録の詩を読み、イエイツ以後の詩人たちの作品を研究する。社会・歴史的背景についても、文学テキスト同様に資料講読を進め、詩の理解を深めることを目指す。

### 【授業計画】

前期は、特に上記テキストおよび資料の輪読を中心とし、後期にはさらにイエイツ、A.クラーク、P.カヴァナー、ヒーニー、ニー・ゴール等の作品を輪読し、ディスカッションを行う。

### 【評価方法】

平常点および学期末レポートにより評価。

### 【テキスト】

O'Tuama & Kinsella, ed., *An Duanaire 1600-1900: Poems of the Dispossessed* (Dolmen Press)

### 【参考書籍】

授業中に指示する。

## 英文学演習Ⅲ a・b

柳原佳枝

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

キリスト教の信仰や伝統に目を向けず、英文学の理解を深めることは不可能なことと思う。この演習では、特に英文学とキリスト教文化の関わりに視点をおいて、作品研究を進める。

### 【授業計画】

<前期>

G.Herbert, H.Vaughan, W.Blake, C.Rossetti, G.M.Hopkins, などの宗教詩を読む。

<後期>

長編小説を取り上げ、その特性を考察する。

輪読、ディスカッションの形式をとり、授業担当者が場合に応じて補足説明・解説を行う。

### 【評価方法】

平常の授業における活動とレポート等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリント配布。及び、教室にて随時指示。

### 【参考書籍】

関連文献は適宜紹介。又は、抜刷を配布する。

## 米文学演習 I a・b

池谷敏忠

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

T. S. エリオットの評論のエッセンスを「断章」という形で読むと共に、文芸用語（英語）の代表的なものを輪読して研究の展開に備えます。

### 【授業計画】

前期・後期を通して文芸の基盤というテーマに沿って輪読するとともに、他の重要文献も読みます。

### 【評価方法】

レポートと各自の出席状況・発表内容などを加味して評価します。

### 【テキスト】

原書のプリントと抜刷を用います。

## 米文学演習 II a・b

唐澤 恪

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

文学研究の領域において多様な諸理論が展開されつつある現在、英米文学の研究においてもこれらの理論についての認識を深めることが求められる。この演習では、下記の現代文学理論の解説書を基礎テキストとして、現代文学理論について学び、その問題点を考えていく。

前期には、ニュー・クリティシズム、ロシア・フォルマリズム、読者反応批評、構造主義理論、マルクス主義理論について検討し、後期には、フェミニズム批評、ポスト構造主義理論、ポスト・モダンリズム理論、ポスト・コロニアル批評他について検討する。このテキストに欠けている情報も随時補う。

### 【授業計画】

授業は、割り当て部分についての、学生の内容発表および問題点の指摘、教師による解説・情報提供、ディスカッション、という順序で進める。諸理論家・批評家の原著についての報告も求める予定。

### 【評価方法】

平常の発表とレポートによる。

### 【テキスト】

Raman Selden, et al., *A Reader's Guide to Contemporary Literary Theory* (Prentice)

## 英語学演習Ⅲ a・b

田中春美

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

言語学を基盤とした英語学の諸分野を復習する。それに加えて、言語学と関連科学が協力する学際的分野のいくつか、社会言語学、心理言語学、神経言語学などについて学ぶ。

### 【授業計画】

前期は、(1) 言語の一般の特徴と動物の伝達、(2) 文法、(3) 意味論、(4) 音韻論などを復習する。事例は主に英語。

後期は、(5) 社会言語学、(6) 心理言語学、(7) 神経言語学、(8) 歴史・比較言語学などを、英語中心に学ぶ。

### 【評価方法】

担当分野の口頭発表と、前後期末のレポートにより評価する。

### 【テキスト】

Language : The Basics

R. L. Trask

London : Routledge 4,000円ぐらい

### 【参考書籍】

授業中に必要に応じて指示する。

## 英文学特講 (1) a・b

柳 五郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

Emily BrontëのWuthering Heights

1. Wuthering Heightsの英文学史上における特異性。
2. juveniliaとWuthering HeightsのCelts的自然崇拜主義から生れる獨創性。
3. 崇高な精神のUndyig lifeの世界

<前期>

1. 英文学と社会の関係を物質崇拜主義偏重への反動として精神的側面への視点の転換。
2. 英文学史上の外面描写から内面描写への傾向を19世紀から20世紀に亙る小説について講義。
3. juveniliaの193編のEmilyの詩におけるUndyig lifeの獨創的世界。

<後期>

1. 時間否定の小説構成とWuthering Heightsの物語構成の特徴。
2. Undyig lifeを希求するCatherineの過程とHeathcliffの過程の特徴。
3. 英文解釈：特にconnotationと象徴主義。
4. Undyig lifeの獨創性と宗教的解釈。

### 【授業計画】

1. Undyig lifeの思想と表現様式の特異性を中心に講義と演習。
2. connotationと理解しがたい象徴的表現の解釈。

### 【評価方法】

多面的研究態度の評価

### 【テキスト】

Wuthering Heights : Emily Brontë, A Norton  
Critical Edition

## 英語学特講（1） a・b

堀内俊和

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

認知文法の視点から英語の統語構造を考察する。  
特にComplex Sentences等、Clauseのレベルを超した現象／構造に焦点をあてたい。

### 【授業計画】

テキストの精読をもとに、適宜他の文献等も参照してディスカッションを行う。

テキストのChapters10,11のComplementation, Raising, Coordination, Anaphora等をカバーしたい。

### 【評価方法】

ゼミでの平常活動とレポート等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

Foundations of Cognitive Grammar II (1991)

R.W. Langacker. Stanford U.P.

## 英語学特講（3） a・b

中野弘三

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

英語の時制、相、法性の考察。この分野の研究の最近の動向を知るため、関連の論文を講読するとともに、必要に応じてプリントを配布してこの分野の問題を解説する。

### 【授業計画】

前期

時制と相に関する論文を講読。それと同時に時制の照応、深層時制、表層時制、直示的時制、非直示的時制など、統語論と意味論にまたがる時制の問題、および相に関する最近の研究の動向を検討する。

後期

法表現の意味用法を扱った論文を講読する一方で、法性の種類、法助動詞の用法などを詳しく考察する。

### 【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

英語の時制、相、法性に関する論文のコピーを使用する。

## 英文学研究 a・b

大野光子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

修士論文作成の指導

研究資料の充実と検索法の指導およびPh.D.論文等をテキストとした演習および独創的論文作成の指導

### 【授業計画】

個別指導

### 【評価方法】

論文内容

### 【テキスト】

論文作成対象となるテキストおよび関連文献

## 英文学研究 a・b

柳 五郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

研究論文作成指導

### 【授業計画】

研究課題の選択、文献調査、論文の構成と独創的研究の指導。

### 【評価方法】

総合的に評価。

### 【テキスト】

Charlotte Bronte: Jane Eyre, A Noton Critical Edition.

# 英語学研究 a・b

松本青也

1・2年 前・後期 選択 各2単位

## 【授業の概要】

研究論文作成指導

主に応用言語学の分野で、仮題の選択、文献調査、研究題目の設定から研究方法と論文の構成・形式まで、独創的な研究のための指導を行う。

## 【授業計画】

研究題目に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、項目ごとに研究発表と議論を積み重ねて研究論文を完成する。

## 【評価方法】

研究発表、論文の総合評価。

## 【テキスト】

プリント他。

下記の科目は、本年度開講しません。

英文学演習 I a・b

柳 五郎

米文学研究 a・b

英語学演習 I a・b

堀内俊和

英語学演習 II a・b

英文学特講 (2) a・b

大野光子

英文学特講 (3) a・b

柳原佳枝

英米文学特講 a・b

米文学特講 (1) a・b

池谷敏忠

米文学特講 (2) a・b

唐澤 恪

英語学特講 (2) a・b

## 情報学特講（1） a・b

野添篤毅 他

1・2年 前・後期 必修 各2単位

### 【授業の概要】

図書館情報学の基礎に関する講義や基礎文献の講読の他に、複数の教員による集団指導により、学術雑誌掲載論文の抄読会およびミニレビューなどを、全院生出席の下に行い、質疑応答や討論を通じて、当該分野の論文・総説等を評価し、研究の進め方および論理的な思考方法や表現方法を学び、修士論文の作成に反映させる。

### 【授業計画】

発表者がレジюмеを作成、配布。

## 情報学演習（1） a・b

野添篤毅 他

2年 前・後期 必修 各2単位

### 【授業の概要】

院生各自の研究計画・内容の発表、研究の進捗状況の報告と討議、および修士論文の中間発表会の開催、さらには関連学会・討論会等の発表内容の検討など、院生の研究活動を複数の教員が集団指導し、修士論文の完成を支援する。

### 【授業計画】

発表者がレジюмеを作成配布。

## 情報学特講 (3) a・b

野添篤毅

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野での研究過程における情報、知識、メディアなどの諸問題について多面的に考察する。

### 【授業計画】

関連分野の最新の学術論文を読み、討論を行なう。

### 【テキスト】

その都度、指示する。

## 情報学特講 (7) a・b

西荒井学

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

情報資源の管理・運用システムを構築するのに必要なシステム分析からシステム設計に至る範囲内の問題を追求する。特に、コンピュータ処理を実現するのに最も重要であると思われるプログラム設計部分、言い換えればアルゴリズムの問題を中心に考えていく。

- 1) 要求定義(機能設計、情報設計)の問題
- 2) システム設計技法の問題
- 3) プログラム設計技法の問題
- 4) プログラミング技法の問題

### 【授業計画】

各種システムの構築に関わる問題を探求していくための題材として、『システム設計に関する学習プログラム』の作成を課題として与えることとする。受講者は、担当部分のモジュール特性を考慮した上で、適切なアルゴリズムの展開を図り、最終的にコンピュータ処理段階まで移行させていくことによって、種々の問題点を互いに検討していく。

なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

### 【評価方法】

課題進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

### 【テキスト】

使用せず

## 情報学特講（8） a・b

山本 進

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

図書館サービスの内容が、利用者にどう受けとめられ、利用されているのかをアンケート調査し、調査結果を分析して各種調査と比較検討し研究をすすめる。

### 【授業計画】

<前期>

県立図書館・名古屋市鶴舞中央図書館を訪問し、現場職員とアンケート内容について打ち合わせを行い、実施時期を決める。

8月、9月中にアンケートを実施する。

<後期>

前期に行ったアンケートを集計し、結果の分析を行う。

### 【評価方法】

### 【テキスト】

「図書館サービスの測定と評価」森 耕一編（日本図書館協会）

## 情報学特講（9） a・b

山崎茂明

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察していく。特に、研究活動、論文作成、口頭発表、投稿、編集、論文審査、出版倫理、科学研究の不正行為といった側面から検討する。

### 【授業計画】

「生命科学論文投稿ガイド」(1996年)を参考にして、そこで扱われたテーマをさらに深め、参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。最初の1-2回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA4版レポート用紙で4枚程度のレジメを提出すること。また、テーマ発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。

### 【評価方法】

発表レポート

### 【参考書籍】

山崎茂明「生命科学論文投稿ガイド」中外医学社

## 情報学特講 (10) a・b

菅野育子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

情報流通におけるさまざまな現象について、その現象の背景について検討する。現象とは、情報量の増大、情報の電子化・老化・一般化・濃縮化・引用行為による情報の流れ、効果的な情報流通のための標準化などを意味する。これらの現象に関連する文献の収集と講読と、その内容に関する議論を行いながら、効果的な情報流通のあり方を検討する。

前期では、各現象に関わる法則、手法、制度に関する基本文献を講読し、後期では各現象に関する現状を把握するために関連文献の収集と講読を行う。

参考文献として、*Information Science in Theory and Practice* (Vickery, B. C. & Vickery, A.) を用いる。

### 【評価方法】

授業での発表内容に基づいて評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 情報学特講 (11) a・b

逸村 裕

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

図書館を情報システムとしてとらえ、その概要、問題点を講じる。

前期は文献を通じて、後期は実例をあげて検討する。

### 【授業計画】

講義を中心に一部に演習を含む。

### 【評価方法】

講義への参加、レポート作成による評価

### 【テキスト】

未定

## 情報学特講 (12) a・b

村主朋英

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

情報史に関する講義や文献講読を行なう。

とくに、情報学／図書館情報学の歴史、情報サービスの歴史、情報技術の歴史、コミュニケーション史／メディア史、科学史などの概念、およびそれに関わる歴史観についても論ずる。

なお、情報史は幅広い領域であるため、動静や受講者の意向を見ながら内容を絞り込む。

### 【授業計画】

1. 情報学／図書館情報学における「もの見方」
2. 情報史にまつわる歴史概念
3. 研究動向・文献概観
4. 情報史の歴史像

### 【成績評価】

平常点とレポートに基づいて行う。

### 【テキスト】

使用せず。(適宜、文献を複写して用いる)

## 情報学演習 (4) a・b

長澤雅男

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

書誌、索引、目録をはじめとする二次的情報メディアを中心に取り上げ、その作成、種類、電子メディア化の現況等について展望する。その際、情報サービス、とりわけレファレンスサービスにおける探索ツール、情報源としての観点から各種のメディアの特性を比較検討する。今年度は特に書誌コントロールの視点からの検討を重視したい。

### 【授業計画】

前期は参加者個別の報告を中心に進め、それに関連する討議に参加することを求めるが、後期には参加者各自が関心を持っている分野あるいは形態の二次的情報メディアに関連するテーマを選び、それぞれに研究論文をまとめることを目標にして調査あるいは研究を行い、順次クラスでその発表をするよう求める。

### 【評価方法】

平常点

### 【テキスト】

使用せず

## 情報学演習 (5) a・b

堀田康雄

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

生命の誕生、生物の進化、組織や器官の分化、細胞の基本構造をDNA・遺伝子の持つ情報変化として理解する。無性生殖と有性生殖の特性の理解。

異性愛と同性愛の遺伝子と5感の作用。

脳と感覚器・脳と運動器官との間の情報伝達。

脳の発生の分化と作用域。

等の項目に関して基礎的考察を行ない、生命情報を大まかに理解する。

### 【授業計画】

本学科出身者にとっては、重複する部分も生じるが、他学科や他大学出身者で、生命科学の情報になじんでいない院生のため、基礎から出発し、単純系から複雑系に授業内容を深める。可能な限り英単語の紹介を入れる。

### 【評価方法】

授業時間内の討論・論文紹介などによる。

### 【テキスト】

生物の情報システム (竹村彰祐・大井龍夫著 講談社サイエンティフィク)

### 【参考書籍】

細胞生物学 (中村・藤山・松原監訳) 南江堂 (¥8000)  
細胞遺伝学 (佐々木編) 裳華房 (¥2900)

## 情報学演習 (6) a・b

岡澤和世

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

この4分の一世紀の間に情報社会が到来し、世界の経済、文化が大きく変化し始めた。情報テクノロジーの発達は我々の生活、仕事、教育に大きな影響を及ぼしている。中でもこの電子環境社会でどうやって情報を見つけたらよいのかとまどっている。本講義の目的は大きく変化している環境にどう対応していくのかを考える。

### 【授業計画】

1. 情報と情報探索
2. 情報探索者と電子環境
3. 情報探索法とその枠組み
4. 個人情報のインフラストラクチャー
5. 戦略法—分析型戦略法
6. ブラウジング戦略
7. ブラウジングをサポートする設計
8. 情報探索の発展—電子環境への対応
9. 将来の方向と展望

### 【評価方法】

レポート

### 【テキスト】

Information Seeking in Electronic Environment (Gary Marchionini) Cambridge Series on Human-Computer Interaction, Cambridge University Press. 1995.

### 【参考書籍】

情報学講義ノート〈3〉 (岡澤和世著 敬文堂) 1989.  
インフォ・リッチ：インフォ・ブア (Trevor Heywood, 岡澤和世訳 敬文堂) 1997.  
Literacy and Library (Jeffrey L.Salter and Charles A.Salter. Libraries Unlimited, Inc. 1991.  
From Print to Electronic (Susan Crawford, Julie M.Hurd and Ann C.Weller, ASIS.  
Meeting manager's information needs (Helen Butcher)  
A Managing Information Report, Aslib, 1998.

# 情報学特講 (13) a・b

細野公男

集中 1・2年 前・後期 選択 各2単位

## 【授業の概要】

情報検索にかかわる基本的な考え方、現在脚光を浴びているアプローチ、技術、サービスを取り上げて、その特徴や問題点を理解する。主として電子図書館における検索と情報利用行動・探索行動に、焦点をあてる。

## 【授業計画】

履修者各自が順番に、指定された論文を読み、発表する。さらに、その発表に基づいてディスカッションを行う。

## 【評価方法】

発表にあたっての準備の度合、発表方法とディスカッションへの貢献度で評価する。

## 【テキスト】

未定。

下記の科目は、本年度開講しません。

情報学特講 (2) a・b

情報学演習 (8) a・b

山本 進

情報学特講 (4) a・b

長澤雅男

情報学演習 (9) a・b

山崎茂明

情報学特講 (5) a・b

堀田康雄

情報学演習 (10) a・b

情報学特講 (6) a・b

岡澤和世

情報学演習 (11) a・b

情報学特講 (14) a・b

情報学特講 (15) a・b

情報学演習 (2) a・b

情報学演習 (3) a・b

野添篤毅

情報学演習 (7) a・b

西荒井学

## 比較文学研究 a・b

池谷敏忠

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT. S. エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

前期は次の事項を予定しています。

比較文学の定義と本質

日本におけるThe Waste Landの受容

T. S. エリオットと立原正秋

共同体と個性の文学

T. S. エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

T. S. エリオットとベルグソン

形面上詩人のアルス・ポエティカ

芸術作品の創造と伝統の継承

Spectrumに見る西脇詩の原型

T. S. エリオットと西田幾多郎

### 【授業計画】

テキストを用いて講義・解説します。

受講生は必ずテキストを持参して下さい。

### 【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

### 【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 晃学出版 値段未定）

## 言語学（現代言語学と自然言語） a・b

B. サン・ジャック

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【Course Content】

Language is central in all human and academic activities. The student of literatures—whether it is Japanese or English—is confronted with language. Information theories cannot exist without language. Computer science has close links with syntactic and semantic theories. The teacher or learner of languages is in constant contact with basic aspects of natural languages. Insights from modern linguistics can be extremely useful—in some cases essential—to serious academic research in the fields of literature, information science, computer science and language acquisition. Indeed, Linguistics is the only science which has language as the main object of study. The purpose of this course is precisely to provide some insights from modern linguistics to students who have to deal with language in their own field of study, but never had the opportunity to study the nature of language as such.

〔この授業は学生の希望によって英語あるいは日本語で行う〕

### 【Assessment】

Presentations又は論文。

### 【Textbooks】

Language, its Structure and Use Edward Finegan & Niko Besnier Harcourt Brace Jovanovich  
(New York, 1989)

## 翻訳論（英語論文作法） a・b

キース・イーズリー

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【Course Content】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

### 【Schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

### 【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

### 【Textbooks】

None

下記の科目は、本年度開講しません。

国文学・英文学専攻共通科目

## 外国語としての日本語 a・b

小林素文

国文学・英文学・図書館情報学専攻共通科目

## 文献検索法 a・b

## 文献情報管理法 a・b

## 国文学特殊研究Ⅱ（中古）

久保朝孝

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

中古文学の独創的研究。  
博士論文作成指導。

### 【授業計画】

各自の専攻テーマに関する研究発表とその批判。

### 【評価方法】

論文の活字化若しくは学会等における口頭発表の有無  
とその内容。

### 【テキスト】

なし。

## 国文学特殊研究Ⅲ（中世1）

岩下紀之

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

受講者の希望する作品を題材とする。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

### 【テキスト】

## 国文学特殊研究Ⅳ（中世2）

山下宏明

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

〈文学研究と批評 課題に向けて〉と題して進める。院生、特に後期課程の学生は、すでに各自の研究課題を持ち、学位請求論文執筆に向けて研究を続けている。課程博士の取得を目的に、年間、少なくとも1本の論文は作成しなければならない。3年間の、その積み上げが学位請求論文になるはずである。

その成果は、たえず学界の状況を把握した上で、方向性を考慮し続けねばならない。学界の動きを知るために、国内にとどまらない、国外の論文にも目を配り、批評に耐えうる成果を生み出すよう志すべきである。一方で、オリジナリティを保つために、独自の基本的な調査も必要である。その成果を確認しつつ、論文の執筆を行わせる。必要に応じて、学内外の学会や研究会への報告を求めることもある。さしあたって物語論と文化史への目配りを注意する。

### 【授業計画】

はじめに修士論文の報告を行わせる。その際に、特に専攻分野の研究状況と、修士論文の位置づけ、意味を重視するよう求める。これは聴講生の輪番制とし、一巡したところで、各分野の顕著な成果を選択し、これを参加者全員で読み、それらの長所と希望課題を語りあう。時に、必要に応じ、一つの方法をめぐって、作品の輪読をも行う。代表的な学会誌への目配りを怠らないよう努めてほしい。

### 【評価方法】

出席状況とレポート、もしくは論文提出による。諸種学会への報告実績も勘案する。

### 【テキスト】

主要な学会誌のなかから注目すべき論文を選択し、コピーをとって使用する。必読の文献は、前期課程の学生に指示したので、参照されたい。

## 国文学特殊研究Ⅴ（近世）

阿部一彦

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

近世文学全般にわたり、受講者の専攻との関連で内容を定める。

### 【授業計画】

上記による。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

未定。

下記の科目は、本年度開講しません。

## 国文学特殊研究Ⅵ（近代）

都築久義

1～3年 前・後期 選択 各2単位

## 国文学特殊研究Ⅰ（上代）

### 【授業の概要】

学生の論文テーマに応じて指導する。

### 【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

### 【評価方法】

平素の学習態度。

### 【テキスト】

なし。

## 英文学特殊研究Ⅰ

柳 五郎

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

Charlotte BrontëのJane Eyre

1. 19世紀イギリス小説に於ける特異性の位置付け
2. JuveniliaとJane Eyreの特徴
3. 詩的散文表現様式
4. 対照的自然描写の特徴
5. 19世紀社会と女性開放

前期

1. 19世紀イギリス社会と女性像
2. Juveniliaと小説の特異性  
特に詩と小説
3. 英文解釈

後期

1. Jane Eyreの希求する世界
2. 対照的自然描写の特徴
3. 英文解釈 (connotation)

### 【授業計画】

講義と英文解釈を基本にして、意見や見解を出し合って進める。

### 【評価方法】

多面的研究態度の評価

### 【テキスト】

Jane Eyre, Charlotte Brontë  
A Norton Critical Edition

## 英文学特殊研究Ⅱ

大野光子

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

アイルランド民衆詩と現代詩との関係を探り、文学的伝統の本質を明らかにすることを目標に、*An Duanaire 1600-1900: Poems of the Dispossessed*収録の詩を読み、イエイツ以後の詩人たちの作品を研究する。社会・歴史的背景についても、文学テキスト同様に資料講読を進め、詩の理解を深めることを目指す。

### 【授業計画】

前期は、特に上記テキストおよび資料の輪読を中心とし、後期にはさらにイエイツ、A.クラーク、P.カヴァナー、ヒーニー、ニー・ゴーノル等の作品を輪読し、ディスカッションを行う。

### 【評価方法】

平常点および学期末レポートにより評価。

### 【テキスト】

O'Tuama & Kinsella, ed., *An Duanaire 1600-1900: Poems of the Dispossessed* (Dolmen Press)

### 【参考書籍】

授業中に指示する。

## 米文学特殊研究Ⅰ

池谷敏忠

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

現代米文学の特色の一つであるユダヤ系文学について研究します。特にSaul Bellowらの作品を取り上げて、実存、不条理、疎外、人間愛などの問題を探求します。

前期は学生の研究対象の作家、作品について研究書を中心に詳細に研究します。

後期は前期の研究に基づいて学生の研究論文の作成を指導します。

### 【授業計画】

プリントを用いて講義・解説し、討論もします。

### 【評価方法】

レポートと出席状況を加味して評価します。

### 【テキスト】

参考文献のプリント。

## 米文学特殊研究Ⅱ

唐澤 恪

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

この特殊研究では、最近のアメリカン・ルネサンス論について検討する。

F. O. Matthiessenの*American Renaissance* (1941) 以後おびただしい数のアメリカン・ルネサンス論が書かれてきたが、この特殊研究では、特に1980年代以後のものを検討していく。その過程で、それ以前の主要な論考についても、レビューする。後期には最近のPoe論についての考察を織りこむ予定。

### 【授業計画】

授業は、割り当て部分についての、学生の内容発表および問題点の指摘、教師による解説・情報提供、ディスカッション、という順序で進めるが、適時に学生に課題を与え、報告を求める予定である。

### 【評価方法】

平常の発表とレポートによる。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 英語学特殊研究Ⅰ（統語論）

堀内俊和

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

認知文法の視点から英語の統語構造を考察する。  
特にComplex Sentences等、Clauseのレベルを超した現象／構造に焦点をあてたい。

### 【授業計画】

テキストの精読をもとに、適宜他の文献等も参照しディスカッションを行う。  
テキストのChapters10,11のComplementation, Raising, Coordination, Anaphora等をカバーしたい。

### 【評価方法】

ゼミでの平常活動とレポート等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

Foundations of Cognitive Grammar II (1991)  
R. W. Langacker. Stanford U. P.

## 英語学特殊研究Ⅱ（言語修得論）

B. サン・ジャック

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

第二言語習得

世界では、bilingualやmultilingual～普通の生活において国語以外一つまたは幾つかの言語を使用している～である国と人間は珍しくない。日本も国際化するにつれ、外国語のできる日本人の数が増えてきている。第二言語の習得というのは、経済的にも、文化的にも、国家と個人にたいして重大な事である。

このコースで学ぶこと：

- (1) バイリンガリズムとは何か
- (2) 国語と第二言語の習得の比較
- (3) 第二言語の習得法の歴史
- (4) 最近の習得法
- (5) 言語習得心理作用
- (6) 言語習得に及ぼす性格と年齢の影響
- (7) 日本における第二言語習得法

### 【評価方法】

Presentations又は論文。

### 【テキスト】

Second Language Acquisition W. Klein  
Cambridge : Cambridge University Press  
『外国語の教え方』D. L. フリーマン 玉川大学

下記の科目は、本年度開講しません。

## 英語学特殊研究Ⅳ（英語教育学）

松本青也

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

応用言語学（英語教育）

第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

### 【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

### 【評価方法】

発表内容と論文の評価。

### 【テキスト】

未定。

## 英文学特殊研究Ⅲ

## 米文学特殊研究Ⅲ

## 英語学特殊研究Ⅲ（社会言語学）

小林素文

## 情報学特殊研究(2)(知識情報処理)

野添篤毅

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

生物医学分野での研究過程に生ずる種々の知識情報処理のプロセスを研究する。

## 情報学特殊研究(3)(二次情報メディア)

長澤雅男

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

レファレンス/情報サービスの動向および情報メディアの増大と多様化について研究するために、今年度は次の著書を輪読して問題点を検討したい。

Introduction to Reference Work, vol.2, Reference Services and Reference Processes. 7th ed. by W.A.Katz. New York, McGraw-Hill, 1997.

The Reference Assessment Manual, comp. and ed. by the Evaluation of Reference and Adult Services Committee, RASD. Ann Arbor, Mich., Pierian Press, 1995.

### 【授業計画】

討論のほか、論文の進捗状況に応じて個別指導を行う。

### 【評価方法】

平常点

### 【テキスト】

使用せず。

## 情報学特殊研究(4) (生体情報のゆらぎ)

堀田康雄

1~3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

学位論文の作成

生命情報・遺伝情報の現状分析と可能性

組織器官の分化研究の現状と21世紀に於ける発展(国際的観点より)

生殖生物学の発展とそれが及ぼす社会的影響(国際的観点より)

遺伝情報の破壊と修復と変化の予測

文献検索、調査

統計処理

予測の設定と確実性

論文の形式

文章の設定

図書館情報学に於いて占める位置

### 【授業計画】

多くの関係教官と連絡を保ちながら、自分のペースで進める。必要な場合には他大学で研究する。常時、論文の内容、進行状況について発表を行う。

### 【評価方法】

論文評価と学術論文出版による。

### 【テキスト】

特に定めない。

## 情報学特殊研究(5) (情報システム設計-人的要因)

岡澤和世

1~3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

情報システムは人の役に立つためにある。設計されたシステムは人が組み立てたものであり、人が利用するためにある。人々の現実の情報要求をうまく満たすことができればできるほどそのシステムは成功したといえる。その意味で、人間の要求を満たすことができないシステム設計はナンセンスである。本講義ではこのような人間の情報要求と情報システムの関係に注目する。人はなぜ情報を必要とするのか?人は情報システムから何を得られると期待しているのか?情報システム設計者はこれからの要求をどうやって満たすのか?

### 【授業計画】

1. ヒューマン・オーガニゼーション (Human organization)
2. システム設計
3. システムの評価:単純さ/感性/キャシュ・フロー分析/利用度/評価法
4. 管理とコントロール
5. 人的要因 (Human factors)
6. 人間-機械の相互作用 (HCI) の問題:概説/HCIの特性/HCIとシステム設計の関係/要約
7. 利用者の参画:利用者とは何か/従来の情報システム/なぜ利用者を中心に据えるべきか/コミュニケーションの難しさ/利用者参画型アプローチ
8. 実行:プランニング/利用者参画と訓練/マニュアル作成/システム・テスト手順の変更/実行後評価/メンテナンス

### 【評価方法】

レポート

### 【テキスト】

インフォ・リッチ:インフォ・プア (Trevor Heywood, 岡澤和世訳 敬文堂)

Designing Information Systems

Stanl G. Blethyn & Carys Y. Parken.

Butterworth-Heinemann, 1990

## 情報学特殊研究(6) (科学情報メディア)

山崎茂明

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察する。海外の研究論文や文献レビューなどから、近年の研究動向や課題を整理していく。特に、科学政策、研究動向、業績評価などのための分析能力の開発を目標に、調査データの収集と考察を試みる。また、AuthorshipやResearch Integrityをめぐる研究倫理について展開をはかる。

アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、日本における主要な科学研究・政策についての主要な調査を分析し、日本の科学研究や科学コミュニケーションの課題や問題を検討する。発表をめぐる出版倫理については、デジタル情報資源も活用し、最近の動向を整理していく。参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。

### 【授業計画】

最初の1-2回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA4版レポート用紙で4枚程度のレジメを提出すること。また、文献レビュー紹介や調査発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。講義に関係する資料は随時配付する。

### 【評価方法】

発表レポート

### 【テキスト】

Science and Engineering Indicators (NSF)、他

## 情報学特殊研究(7) (図書館情報システム)

山本 進

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

図書館の利用状況を調査・分析し、従来から用いられてきた評価基準値を、現実の利用状況の分析結果と比較検討して、新しい評価基準を作成し、検討を重ねる。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

### 【テキスト】

図書館サービスの評価 ランカスター (中村・三輪共訳丸善)

下記の科目は、本年度開講しません。

## 情報学特殊研究（8）（異資料情報処理）

太田 裕

1～3年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

資料（データ）・情報をもつ意義を考察し、異質・多様な資料が併存するところに現代の特徴があり、従来の理系一文系で別個に発達した資料処理法を超越し、融合させるところに問題解決学の核心があることをまず明らかにする。次いで、このための種々の技法を概観し、事例問題を模擬実験することで、関連知見の把握を確実にする。受講者がもつ研究課題との接点を探索し、課題に特化した問題解決技法を見出し実践力を養う。

### 【授業計画】

学習は講述と実践に大きく分けられる。前者は資料（データ）・情報に関わる基礎事項を徹底的に学習・体得し、問題解決学の多様な技法の理解に力点を置いた解説を行う。後者は受講者自身がPC等を使い、実践的に学習する授業内容とする。

受講予定者が各自の研究課題を持ち、展開の最中にある院生諸氏であることから、種々の技法を各自の研究課題に応用し、実践と通じて問題解決力の涵養に努める。

（注）第1講目に少テストを実施し、受講者の関連知識の一般把握を試みる。これを基本資料として、第2講目以降の講義内容・実践学習について細部提案を行い、受講者との合意を得て講義の全体を確定する。

### 【評価方法】

学習の進行は折々の、中間成果物（レポート）として提出され、報告することでチェックされる。各自の研究課題進展にどのように活用されるかについて、見直し、成果を含むレポートの作成と提出を求める。これらを総合して、学習到達度を評価する。

### 【テキスト】

単一のテキストはない。

### 【参考書籍】

適時に図書・文献を紹介する。プリント等を常時配布する。

## 情報学特殊研究（1）

## 情報学特殊研究（9）

## 生体情報心理学特講 1 a・b (脳と記号情報処理)

杉本助男

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

老化と脳との関連についての英文文献を講読すると同時に、以下の研究課題について講義形式の授業を行う。

前期は、「The Neuropsychology of Aging, D.S. Woodruff-Park」の第7章「Emotion, Aging, and Brain Function」を輪読しながら、脳の基礎について学習し、同時に英語読解のウォーミング・アップをする。また、その中の1文献を読み、後期に発表する。

後期は、以下のテーマについて講義形式の授業を行う。また、各自1回の発表をする。

1. 刺激希求の個人差と脳誘発電位
2. 刺激欠乏環境
3. 短期感覚遮断のポジティブ効果
4. 香りの心理効果 (脳波研究)
5. サーカディアンリズム
6. ウルトラディアンリズム

### 【授業計画】

前期は英文論文を輪読しながら、情動と脳との関連について講義し、討論する。

後期は、上記課題について講義形式の授業を行うと同時に、それぞれのテーマについて討論を行う。

また、前期の論文の中から1文献を選び、発表、討論を行う。

### 【評価方法】

文献読解理解力、討論内容等から評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 生体情報心理学演習 1 a・b (脳と記号情報処理)

杉本助男

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

下記の研究領域について文献を講読し、発表し、討論する。また、その過程で修士論文の研究テーマを決定し、実験計画を立てる。

1. 個体のさまざまな状態変数または特性変数に関する脳波研究、またはポリグラフ研究
2. 感情の顔面表出における脳波および筋電図研究
3. 脳障害者または痴呆性老人を対象とした臨床神経心理学研究
4. 感覚刺激の適正範囲と個人差に関する生理心理学的研究
5. 生体リズムと行動との関連に関する生理心理学的研究

### 【授業計画】

各自が選んだ研究テーマについての文献の発表を行い、討論する。また実験計画を立て、研究を遂行する。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 生体情報心理学特講 2 a・b (感情の精神生理学)

清水 遼

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

生体が感覚刺激として受容する外界情報やそれらを処理する過程で派生する内部情報は様々な生理・心理的反応を惹起する。これら生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる情動のプロセスを精神生理学的観点から検討していく。

### 【授業計画】

前期は情動に関連した神経系の電気生理学的活動指標及び精神内分泌系、免疫系の生化学的活性指標に関して解説する。

#### 1. 中枢神経と末梢神経活動指標

脳電図 心電図 筋電図 皮膚電気活動 呼吸活動

#### 2. 精神内分泌系活動指標

コルチゾール、コルチゾン、MHPG

#### 3. 免疫系活動指標

NK細胞 分泌型免疫グロブリンA

後期は、これまでになされてきた情動プロセスの精神生理学的研究に関する欧文書を輪読することで神経活動、内分泌系活動および免疫系活動との関連性についての知見を深める。

### 【評価方法】

授業への積極的参加度、文献内容理解力により評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜テーマに関連する文献を紹介する。

## 生体情報心理学演習 2 a・b (感情の精神生理学)

清水 遼

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

環境の快適性や情動ストレスとその精神生理学的及び神経化学的測定法に関する内外の文献を講読し、発表討論を行う中で各人のテーマ決定の方向づけを行う。

### 【授業計画】

#### 1. 環境の快適性に関する研究

香りの感情に及ぼす影響

音（音楽）の感情に及ぼす影響

色（照明）の感情に及ぼす影響

#### 2. 高齢者感情コントロールに及ぼす動物介在療法の効果

#### 3. オーディオ・ビジュアル通信コミュニケーションにおける信号遅延の感情に及ぼす影響

### 【評価方法】

発表討議内容、研究活動の報告レポートなどにより評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 生体情報心理学特講3 a・b (認知情報処理論)

多鹿秀継

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

認知情報処理論。単語・文(章)などの言語情報や図・絵などの絵画情報をどのように処理し利用していくのかを、知識の獲得と利用(学習・記憶・問題解決)の側面から講義する。

前期は、認知心理学における記憶と問題解決の基礎概念の理解を図る。

1. 記憶の情報処理過程
  - 1-1 記憶研究の源流
  - 1-2 言語学習過程
  - 1-3 記憶情報の貯蔵庫と処理過程の特徴
2. 問題解決過程
  - 2-1 問題解決の定義
  - 2-2 問題解決方略
  - 2-3 問題解決における知識の役割

後期は、前期の総論を受けて、情報の獲得と利用過程に関する研究の各論の理解を目指す。

1. 記憶情報の区分の問題
  - 1-1 記憶情報の区分とは何か
  - 1-2 記憶情報の区分の実証的研究
2. 潜在的記憶
  - 2-1 ブライミング研究
  - 2-2 潜在記憶の特徴
  - 2-3 潜在記憶の神経心理学的研究
3. 虚偽の記憶
  - 3-1 虚偽の記憶とは何か
  - 3-2 虚偽の記憶の実証的研究
4. 問題解決過程の情報処理アプローチ
  - 4-1 問題解決過程の個人差
  - 4-2 問題解決過程と転移

### 【授業計画】

講義形式。プリントとOHPを利用する。

### 【評価方法】

前期と後期の授業時間内で、各自が発表したレポートの内容によって評価する。レポートの内容はその学期に学習した授業内容で関心をもったテーマから選択し、そのテーマの実験計画からなる。

### 【テキスト】

使用せず。授業の中で、テーマに関係する文献を紹介。

## 記号コミュニケーション特講1 a・b (認知発達心理学)

竹内謙彰

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

記号的コミュニケーション研究において、その中心となってきたのは言語の研究であった。本授業では、従来の研究の流れとはやや異質とも言える、空間情報のコミュニケーションの問題をとりあげる。

前期においては、空間認知にまつわる諸問題を概観する。後期においては、地図表象の理解や空間情報の言語的伝達など、空間情報に関わるコミュニケーションの具体的問題に焦点をあてる。

講義と講読演習によって授業を展開する。

### 【授業計画】

前期、後期とも、最初の数回及び最後の1回は、講義形式で授業を行う。他は、各テーマに沿った講読演習形式の授業を行う。

前期テーマ：空間認知の諸問題(トピック～空間探索、ナビゲーション、空間能力の個人差と性差など)。

後期テーマ：空間情報のコミュニケーション(トピック～空間情報の言語化、地図表象の理解など)。

### 【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

### 【参考書籍】

空間に生きる(空間認知の発達研究会編 北大路書房)

## 記号コミュニケーション演習1 a・b (環境イメージ論)

加藤義信

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

空間認知論に含まれる研究テーマを選択した院生の研究指導を中心に行う。鋭い問題設定、それに基づく実証的データの十分な収集、結果のすぐれた分析から成る修士論文が書けるよう、必要な文献の講読、方法論の検討をともに進める。

「理解される空間」を中心に行われてきた従来の空間認知研究とは異なり、人間と空間との関わりを「生きられる空間」の問題として考える視点を重視して、文献講読を行う。基本的には、各人の修士論文に必要な文献を取り上げていくが、随時、従来の心理学ではあまり研究対象とならなかった空間の問題についても考えてみたい。

### 【授業計画】

修士論文の進展に合わせて、そのときどきの課題や読んだ文献を受講者が報告する形式を中心に進める。

### 【評価方法】

報告の内容、形式の水準、及び授業の中で展開される議論への貢献度によって、評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 記号コミュニケーション特講2 a・b (障害児発達心理学)

二宮 昭

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

人の「からだ」の動きを本人の主體的な身体運動制御という心理学的な活動として捉え、そのような制御能力を高めることを目的として行われる「動作法」の理論と方法を中心に、「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達援助のあり方について検討する。また、動作法を実施していく上で大きな問題となる援助者と被援助者との間でみられるやりとりに関して、それと深い関係のある発達初期における大人と乳幼児のとのやりとり（原初的コミュニケーション）の様相の分析についても考察していくことにする。それらを通して、人間の行動を意味づけるものとしての記号の獲得とその障害に関する問題を人と人との「やりとり」という面から捉えるとともに、コミュニケーションの基盤としての「からだ」のもつ意義について探っていく。

### 【授業計画】

前期は動作法に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論するという形式と、講義形式の併用で授業を進める。

後期は下記のテキストを用い、主として討論形式で授業を行う。

### 【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

### 【テキスト】

原初的コミュニケーションの諸相（鯨岡峻著 ミネルヴァ書房）

### 【参考書籍】

講座・臨床動作学1 臨床動作学基礎（成瀬悟策著 学苑社）

## 社会コミュニケーション特講1a・b (普及過程論)

宇野善康

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

人びとの行動様式、人の作った新製品、あるいは思想や思考方法などがさまざまな文化をもつ社会の中で、どのように普及し定着していったか、社会がどのように変容していったか。普及過程にみられる諸問題を取り上げて検討していきます。

使用する2冊のテキストを各自徹底的に読んできていただき、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進めます。テキスト以外の話題としては、筆者の提唱する異文化間屈折理論（これはコミュニケーション科学に基づいて発展した普及学の中の先端的理論の1つですが）を取り上げ検討していただく予定です。

### 【授業計画】

ほとんどがディスカッション形式で進めるので、受講者はテキストを予めよく読んでおくことが必要。

### 【評価方法】

期末試験もしくはレポート提出により評価。

### 【テキスト】

普及学講義（宇野善康著 有斐閣 1,854円）

イノベーション普及学入門（E.M.ロジャーズ著 宇野善康監訳 6,800円）

## 社会コミュニケーション演習1a・b (普及過程論)

宇野善康

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

人びとの行動様式、人の作った新製品、あるいは思想や思考方法などがさまざまな文化をもつ社会の中で、どのように普及し定着していったか、社会がどのように変容していったか。普及過程にみられる諸問題を取り上げて検討していきます。

使用する2冊のテキストを各自徹底的に読んできていただき、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進めます。テキスト以外の話題としては、筆者の提唱する異文化間屈折理論（これはコミュニケーション科学に基づいて発展した普及学の中の先端的理論の1つですが）を取り上げ検討していただく予定です。

### 【授業計画】

ほとんどがディスカッション形式で進めるので、受講者はテキストを予めよく読んでおくことが必要。

### 【評価方法】

期末試験もしくはレポート提出により評価。

### 【テキスト】

普及学講義（宇野善康著 有斐閣 1,854円）

イノベーション普及学入門（E.M.ロジャーズ著 宇野善康監訳 6,800円）

## 社会コミュニケーション特講2 a・b (コミュニティ心理学)

植村勝彦

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

コミュニティに内在する諸問題を、臨床社会心理学ともいえる視点から扱うコミュニティ心理学は、一つには従来個人臨床心理学の限界を補完ないし打開するものとして、また個人を取り巻く各種組織や小社会のシステムの実践的変革を目指す心理学として期待されている。ただ、我が国においてはまだなじみが薄く、研究実績にも乏しいという現状に鑑みて、当面は、この新しい心理科学の実際を紹介することを課題と目標とする。

上記の理由から、啓蒙の意味を込めて、コミュニティ心理学の全体的概要を紹介することから始める。コミュニティ心理学の成立に至る背景・歴史、研究理念・目標、独特の研究手法、過去を中心テーマであった精神保健問題、今日の解決課題・テーマなど、主にアメリカのデータに基づきながら進めるが、これはまた日本の現在および近未来の姿でもあろう。

### 【授業計画】

ダッフィ/ウォン著・植村勝彦監訳『コミュニティ心理学』(ナカニシヤ出版)をテキストに、受講者に分担してもらいながら、また引用文献の紹介も分担してもらいながら討論を含めて進める。前後期とも継続で進行する。また、山本和郎著『コミュニティ心理学』(東京大学出版会)、オーフォード著・山本和郎監訳『コミュニティ心理学』(ミネルヴァ書房)、山本和郎他編『臨床・コミュニティ心理学』(ミネルヴァ書房)、安藤延男監訳『生態学的心理学入門』(九州大学出版会)などの参考書を随時資料としながら補足する。

### 【評価方法】

前期、後期にそれぞれ課すレポートと、分担発表の成績により評価する。

### 【テキスト】

コミュニティ心理学 (ダッフィ/ウォン著 植村勝彦監訳 ナカニシヤ出版、1999)

## 社会コミュニケーション演習2 a・b (コミュニティ心理学)

植村勝彦

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、深い学識と緻密な論理構成のもとに、各自が関心を持つテーマを設定し追究することによって、最終的には修士論文を作成することを課題と目標とする。

コミュニティ心理学のトピックスを扱っている専門誌である『*American Journal of Community Psychology*』、『*Journal of Community Psychology*』、『*Journal of Community and Applied Social Psychology*』、『コミュニティ心理学研究』掲載の論文を中心に、内外の著書、論文の輪読を通じてコミュニティ心理学の理解を深めること、また各自の修士論文につながる研究の展開を目指す演習とする。

加えて、実証的研究に不可欠な、データの統計的処理方法や、多変量解析の理論とその実際についても解説する。

### 【授業計画】

毎回個人発表を行い、取り上げられた論文やテーマについて徹底した討論によって、その内容や方法、論旨の展開を批判的に読みとり、論理的・実証的に再構築できる力を養う。とくに2年次学生については、修士論文作成に向けての助言・指導に当てる。

### 【評価方法】

毎回の個人発表、およびレポートによって評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 社会コミュニケーション特講3 a・b (対人コミュニケーション論)

吉田俊和

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

個人や集団に関わる問題を中心に、社会心理学の考え方や研究方法について考える。

前期は、個人が他者や事象をどう見たり、どのような態度を形成したり、どのような関係を築こうとするかを扱う。具体的なトピックは、社会的認知、対人認知、帰属過程、社会的公正、社会的態度、対人関係と魅力、対人相互作用である。

後期は、集団になると、他者が個人の行動にどのように影響したり、集団全体の生産性はどうなるのか、特定集団のダイナミクス、文化的影響等を扱う。具体的なトピックは、社会的影響過程、社会的勢力、グループ・パフォーマンス、職場集団、学級集団、家族集団、集団と文化である。

### 【授業計画】

授業の概要は、マインドコントロールや悪徳商法が、なぜ生じるのかについて、実際の事象を例に、社会心理学的立場から解明したものです。授業の進め方は、発表者が要点をレポートし、全員で討論するという形式で行う。

### 【評価方法】

発表と討論への参加度。

### 【テキスト】

影響力の武器—なぜ、人は動かされるのか— ロバート・B・チャルディーニ著 社会行動研究会訳 誠信書房 (¥3300)

## 社会コミュニケーション特講4 a・b (組織コミュニケーション論)

渡邊直登

集中 1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

経営組織の中で働く人間の心理と行動について、個人レベル、集団レベル、組織レベルの観点から論ずる。授業は、ケース・メソッドを中心に行ない、講義は補足的に行なう。受講者は、企業の現場で実際に生じたコミュニケーション上の出来事を、グループ討議と全体討議を通じて学ぶことになる。

### 【授業計画】

授業は事前に配布するケースを読み、それについてグループで討論した後、クラス全員で討論する形式を取る。グループがひとつしかない場合は、はじめは学生だけで討論し、後に教員が討論をリードする。この形式は、多くのビジネス・スクールで用いられているケースメソッドと呼ばれる教授法である。はじめは慣れないかもしれないが、1～2ケースをこなすうちに慣れてくると信ずる。

ケースでは取り扱えなかった理論的な問題点については、教員がレクチャーを行なって補う。

### 【評価方法】

授業で取り上げなかったケースについての分析を課す。ケース分析の深さと広さで評価する。

### 【テキスト】

高木晴夫監訳「組織行動のマネジメント」1997 ダイアモンド社 (参考図書)

渡辺直登他訳「神経症組織」1995 亀田ブックサービス (参考図書)

渡辺直登・野口裕之「組織心理測定論」1999 白桃書房 (参考図書)

### 【使用ケース】

- ・東西工業株式会社
  - ・浜松テクノロジー株式会社
  - ・S建設株式会社—井上倫子—
  - ・セントポール株式会社
- など、慶応大学ビジネス・スクール所収のケース

## 臨床心理学特講 1 a・b (精神医学)

加藤雄一

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

精神病理的な病態と、それへの治療的アプローチ

前期では、精神医学的な病態と治療に関して、基本的な知識を与える講義を行う。

後期では、今日的な精神病理上の問題をトピックス的に取り上げ、また方法論についての講義も行う。

講義項目を参考までにあげておく。

前期：はじめに（対象・方法・原因など）、精神分裂病、気分障害（感情病）、非定型精神病、症状性精神病、脳器質性精神病、てんかん、物質依存（アルコール、薬物など）、人格障害、神経症・フロイトの精神分析理論の構築に貢献した症例、心身症、多重人格（ヒステリー型神経症、解離性障害、多重人格および解離の歴史、多重人格の位置づけなど）、心的外傷後ストレス障害、アダルトチルドレン（共依存）、HIV感染とエイズに関する不安およびカウンセリング、精神科薬物療法・副作用・その他の治療法、精神科検査法（医学的検査・心理学的検査）

後期：海外不適合、復帰した学生、性に関する若干の問題・男性性・女性性・両性具有性など、老年期の不安に関する精神病理学的な見方、ターミナルケアと悲嘆の過程、自殺・自殺補助・安楽死・尊厳死、境界型人格障害（概念の歴史、診断基準、精神病理、経験症例など）、クレッチマー、E. の敏感関係妄想概念に見る了解関連、女性のライフサイクルから見た精神障害（反応性妄想性精神病、恋愛妄想、嫉妬妄想、産後精神障害）、青年期に見る4つの精神障害（摂食障害、対人恐怖症、登校拒否、スチューデントアパシーなど）、精神分裂病に対する力動的な了解と精神療法、心理療法と逆転移

### 【授業計画】

できるだけ事例をあげて説明してゆく予定である。講義についてはその都度刷り物を渡す。全部で一冊のテキストになる。

### 【評価方法】

『私の逆転移』をテーマとして、レポート提出

### 【テキスト】

その都度、刷り物を渡す。

## 臨床心理学演習 1 a・b (精神医学)

加藤雄一

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

精神病理学上あるいは臨床心理学上の基礎的な問題、および心理療法ないしカウンセリングに関する文献の抄読と検討

修士論文の指導と検討

### 【授業計画】

各自が勉強してきた論文を紹介し、検討しあう。また作成中の修士論文に関して討論する。

### 【評価方法】

研究レポートの提出その他により評価する

### 【テキスト】

検討するために選択されたその都度の文献を用いる。

## 臨床心理学特講 2 a・b (臨床心理学)

江口昇勇

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

前期は、2年ほど取り上げているPaul Kugler編の“Jungian Perspectives on Clinical Supervision” 1995 Dimon, Switzerlandを読みながら、スーパービジョンを巡って検討する。不出来であるが江口により一応、訳出しているため、語学が苦手の方でも受講は可能である。翻訳分と英文を比較しながら内容の検討を深めたい。特にスーパービジョンと教育分析の違い、逆転移の捉え方等を巡って、実際にスーパービジョンを受けている受講生も多いので、自分の体験との比較を通して学んでいきたい。ユング派の分析家による論文集なので、当然ながらユング派の概念が出てくるので、ある程度の基礎知識は前提となっていることを覚悟されたい。毎時間、予め配布してある英文と翻訳文の吟味を行い、授業に参加すること、自分なりの意見のまとめをしておくこと。後期では、邦文で書かれた治療関係論、転移・逆転移に関する著作や論文を読みながら、討論を中心に進めていきたい。海外での議論と我が国で展開している議論の違いを味わっていただけると興味が持てるのではないかと考えている。

### 【授業計画】

事前に英文のコピーと訳出文を渡すので熟読して授業に参加すること。討論中心の授業形態なので参加者は必ず発言を求められる。予め自分の考えをまとめておいて積極的に討論に加わること。

### 【評価方法】

授業への参加態度、討論への積極的関与の姿勢、発言の内容を成績評価の重要な視点とする。特にレポートは課さないが、その代わりに平常点を厳しく査定する。自分なりの意見のまとめ方、表現方法、内容の深さ、他の人の意見への対応など、細かく評価するつもりである。

### 【テキスト】

前期では、コピーを配布する。

後期 転移／逆転移—臨床の場面から— (氏原寛・成田善弘編 人文書院)

### 【参考書籍】

なし

## 臨床心理学演習 2 a・b (臨床心理学)

江口昇勇

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

指導院生の修士論文執筆に関するグループ・ディスカッションを中心に授業を行っている。修士論文執筆に限定しているので受講は指導院生に限定されている。研究計画に基づいて発表する院生に対して、指導教員や他の院生から様々な視点からの批判を受けることになる。方法論の検討から、対象選定、その現実性や最終的な意味まで厳しい討論が続くので、そのつもりで受講すること。特に、修士論文の執筆に専念しなければいけない時期には当該院生の発表の機会が多くなる。また、臨床的素材を扱う研究の場合、研究者の個人的で主観的な歪みを補正する上で、ゼミにおける臨床素材へのグループ検討や、グループ・スーパービジョンが行われる。こうした臨床的色彩の濃いセッションが幾度か持たれることが、演習の特徴である。このような相互主観性による客観性の保持という臨床研究特有の方法論を授業の中で体験することが大切と考えている。

### 【授業計画】

研究計画の大枠を特定し、次に方法論の特定、調査法か実験か、臨床的アプローチか、あるいはその組み合わせかが検討される。その後、測定ツールの検討や実験条件の特定が行われ、対象の特定と臨床面接法ではその対象の選定基準の明確化が行われる。最後に結果とその考察といった順に演習での中間発表が進行する。修士論文を2年間で完成させることは実際は困難なことである。できるだけ計画を前倒しするつもりで研究を進行させること。

### 【評価方法】

授業における発言の姿勢と、その内容の質を評価の対象とする。また発表者には発表の方法や表現力も評価の対象とする。

### 【テキスト】

各自、研究対象が異なるので共通のテキストは使用しない。各自の文献研究がテキストの役割を果たす。

### 【参考書籍】

なし

## 臨床心理面接特講 a・b (心理療法)

古井 景

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

臨床心理面接を行っていくための心構え、知識、技法、面接経過中に生じる様々な問題点など、力動精神医学の立場から考えていく。特に自我機能についての理解を深め、具体的な症例を示しながら解説していく。また、一般精神医学・心身医学などの知識（診断・薬物療法）にも目を向けていく。

### 【授業計画】

資料配付により講義をすすめる。

前期・後期通して以下の項目について学んでいく。

- I. counselingとpsychotherapy
- II. 精神力動  
自我の構造モデルと自我機能  
(現実機能、適応機能、防衛機能、対象関係機能、思考過程、総合機能、自立的機能)  
人格構造  
退行  
(病的退行、治療的退行、健康的退行、適応・防衛としての退行)  
情緒発達理論
- III. 心理面接  
アセスメント  
(初回面接と見立て)  
治療契約と治療構造  
治療過程の諸問題  
治療終結
- IV. 事例検討・治療の実際  
児童の遊戯療法と親面接  
思春期・青年期の適応障害  
その他

### 【評価方法】

授業内容の理解度により、成績を評価判定する。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

## 臨床心理学演習3 a・b (心理療法)

古井 景

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

自我機能・精神力動に関する知識を深めていく。自我機能の健全な発達と障害について学び、臨床心理面接技法へと繋げていく。様々な論文・著書を活用し、積極的な討議を行っていく。

また、修士論文の作成に関しても、参加者自らの積極的な取り組みを前提として、互いに検討・議論を積み重ねていく。

### 【授業計画】

以下の項目を中心として、参加者の発表と討論を通して、知識を深めていく。

- ・自我心理学の歴史
- ・対象関係論への発展
- ・自我構造モデルと自我機能
- ・対象喪失と取り入れ
- ・分裂的機制
- ・抑鬱の態勢、躁の防衛
- ・乳幼児期の自我-対象-分裂
- ・移行対象と移行現象
- ・分離個体化理論

### 【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

## 臨床心理学特講 3 a・b (人格心理学)

富安玲子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

主にマイクロカウンセリングの技法の紹介をとおして面接過程の理解と一般的技術の習得を目的とする。

面接のコミュニケーションの技法である「マイクロ技法の階層表」にしたがって基本的かかわり技法、焦点のあてかた、積極技法、技法の統合などを理解することにより、面接過程について考察する。また、その過程に影響を及ぼす条件、面接する者としての心構え・態度、面接の一般的技術の諸問題などについて検討する。

### 【授業計画】

テキストを中心に講義を行うが、ビデオのロール・プレイング事例などの検討も含めながら、実践性を高めていきたい。

#### a (前期)

「相談心理学」におけるマイクロカウンセリングの位置付けを考え、基本的なマイクロ技法の習得による面接過程の理解を目指す。

①「相談心理学」とマイクロカウンセリング

②マイクロ技法の意味と基本的かかわり技法の習得

初回と最終回にロール・プレイングを実施し、技法の意味を考える。

#### b (後期)

マイクロ技法の階層として、前期の基本的かかわり技法の上に位置する積極技法を中心に技法の習得と意味を考え、技法の連鎖・統合を目指して行く。

①マイクロ技法の中の積極技法の習得

②技法の習得と面接過程

最終回にロール・プレイングを実施し、前期の実施結果との比較検討を行う。

### 【評価方法】

ロール・プレイングの逐語録検討のレポートと授業への参加関与度によって評価する。

### 【テキスト】

『マイクロカウンセリング』アイビー, A.E. (福原、椋山、国分、楡木訳) 川島書店

### 【参考書籍】

授業の中で紹介する。

## 臨床心理査定演習 a・b (臨床心理アセスメント)

田中富士夫

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

臨床心理学的査定に用いる心理検査について、研究動向を把握し、臨床的適用法をも会得することが目的である。

a (前期) では、古典的テスト理論を中心として心理検査の基礎的理解を深めること、b (後期) では臨床査定に使われる代表的な検査について臨床解釈に重点をおく。aの知識なしにbを理解することは不可能であることを承知されたい。

#### a ①心理検査の定義と歴史

②心理検査の信頼性

③心理検査の妥当性

④心理検査の標準化

⑤項目分析

⑥検査結果の表示法

⑦検査の実施と受検態度

⑧心理検査の検索と評価

#### b ⑨臨床査定の意義

⑩WAIS-Rの臨床解釈

⑪MMPIの臨床解釈

⑫ロールシャッハ・テストの臨床解釈

⑬心理検査のコンピュータ化

⑭行動査定

### 【授業計画】

講義・討論・論文講読を適宜組合せた形で進める。aの部分は受講者の知識に応じて適宜伸縮する。

### 【評価方法】

討議への積極的参加度とレポートの内容から総合的に判断する。

### 【テキスト】

講義の時に指示する予定。

## 臨床心理基礎実習

西出隆紀 加藤雄一 江口昇勇  
古井景 二宮昭 富安玲子

オムニバス 1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

臨床心理学の実践に必要な基礎知識・技能・態度を身につけるための実習である。

### 【授業計画】

1. 心理臨床入門講習
  - 1-1 受理面接1（乳幼児期・児童期等）
  - 1-2 受理面接2（思春期・青年期）
  - 1-3 受理面接3（成人期・老年期）
  - 1-4 受付・契約・危機介入・限界設定
  - 1-5 カルテ管理・守秘義務・面接時の留意点
  - 1-6 心理検査・クリニカルレポート・リファーマ
  - 1-7 見立て・治療方針・共同治療（含家族療法）
2. ロールプレイ実習（8月末に合宿形式で実施）
  - 2-1 ロールプレイイングについて
  - 2-2 実習
  - 2-3 まとめ

入門講習は、講義・演習方式に加えて実習形式も適宜取り入れていく。ロールプレイ実習は学外で2泊3日の合宿を行い、相互にカウンセラー・クライアント役を演じ、参加者の講評を受ける。

なお、全ての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

### 【評価方法】

成績は受講態度と提出物から評価する。特殊な実習なので、やむを得ない事情がない限り、1回でも遅刻・欠席があれば単位は認めない。

### 【テキスト】

その都度プリントとして配布。

## 臨床心理実習

西出隆紀 加藤雄一 江口昇勇 古井景 二宮昭

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

心理臨床実践を行い、それに対するスーパービジョン、ケース・コンサルテーションなどを受けることにより、心理臨床家（臨床心理士）になっていくための基礎的な能力の修得を目指す。

### 【授業計画】

1. 心理臨床実践  
本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。
2. ケース・カンファレンス  
本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加し、ケース・プレゼンテーションを行って、討議を通して指導を受ける。また、他者の提示したケース資料について討議する。
3. スーパービジョン体験  
スーパーバイザーとしてスーパービジョンを受ける。原則としてセッション1回につき、1回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることにもなる。  
上記のように、完全に実習中心で進める。当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当の時間をとられることを覚悟して欲しい。  
なお、全ての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

### 【評価方法】

実習態度から評価する。なお、特別な理由もなくケース・カンファレンスに欠席した場合は、その場で失格となる上、今後いかなる場合も受講を認めない。

### 【テキスト】

使用しない。しかし、参考文献としてかなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示されることになろう。

## 心理学研究法特講 a・b

杉本助男 清水 遵 加藤義信 二宮 昭 宇野善康  
植村勝彦 加藤雄一 江口昇勇 古井 景 富安玲子

オムニバス 1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

心理学研究法の講義は1) 観察法、2) 実験法、3) 面接法、4) 調査法、5) 心理検査法、6) 事例研究法、7) 統計法に区分し、各領域をそれぞれの教員が分担して開講する。

具体的には、観察法については二宮昭先生、調査法については宇野善康先生、植村勝彦先生が分担する。なお、植村勝彦先生は統計法の基礎的な部分、本学の統計ソフトが扱えるような講義と調査統計を含めて講義する。実験法に関しては杉本助男先生、清水遵先生が分担し、実験に伴う統計法を清水先生の講義に含める。臨床心理学の領域では、面接法では一般的面接法を富安玲子先生、臨床面接法を江口昇勇先生が担当する。加藤雄一先生は事例研究法を、古井景先生は質問紙検査法と投影法を担当する。

### 【評価方法】

評価は前期、後期独立して行う。半期の講義の中から各研究法に関するレポートを提出すること。

### 【テキスト】

テキストは特に指定しない。

下記の科目は、本年度開講しません。

## 生体情報心理学演習2 a・b (感情の精神生理学)

清水 遵

## 記号コミュニケーション演習2 a・b (障害児発達心理学)

二宮 昭

## 記号コミュニケーション特講3 a・b

## 【授業の概要】

## 1) コミュニケーション

コミュニケーションには元来二つの研究分野がある。一つは、ラジオ・テレビ・新聞・雑誌等のマス・メディアを対象とする研究：マクロ・コミュニケーションであり、もう一つは、コミュニケーションを構成する要素、つまり人と人との間のパーソナルなコミュニケーションに焦点を合わせる研究：マイクロ・コミュニケーションである。この特講では、マイクロ側面が研究の中心になる。

## 2) 異文化

Intracultural communication (文化内コミュニケーション) と intercultural communication (異文化コミュニケーション) は非常に似た過程と活動を持つ。ところが異文化コミュニケーションの場合では、文化の違いが意味を持つという概念が中心である。言い換えれば、文化とコミュニケーションの間には密接な関係が存在する。

## 3) カウンセリング

カウンセリングには二つのカウンセリング分野がある：第一は精神的正常な人に対して行う発育的、発達の (developmental) カウンセリングまたは予防的 (preventive) カウンセリングであり、第二は精神的な問題のある人に対して行う治療上 (psychotherapeutic) カウンセリングである。勿論、この特講では第一のカウンセリングについて研究をする。

\* Saito, M., 1993, "Counseling in Japan" in Counseling in the Asia-Pacific Region, (Eds. Othman, A.H. & Awang, A.) London : Greenwood Press.

## 【評価方法】

Presentations又は論文。

## 【テキスト】

Saint-Jacques, B. (ed.) Studies in Language and Culture, Institute of Language and Culture, Aichi Shukutoku University, 1995

## 【授業の概要】

修士論文演習

## 【テキスト】

使用せず。

## 異文化コミュニケーション特講2 (異文化接触-欧-)

義井 博

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

古代から近代に至る次のような授業計画のテーマを焦点として、西洋歴史の展開を異文化コミュニケーションの視点にたって展望するとともに、現在直面している西洋文化の課題を東洋文化のそれと対比しながら検討する。

- 1.ヘレニズムとヘブライズム
- 2.キリスト教帝国に変遷した古代ローマ帝国
- 3.ヨーロッパ世界の成立
- 4.近代国家原型の誕生 ドイツ
- 5.イタリア、フランス
- 6.イギリス
- 7.イスパニア・ポルトガルの建国と大航海時代
- 8.東方諸族の侵入と東欧諸国の動向-西欧と東欧-
- 9.ヨーロッパ国家系の形成
- 10.第一次世界大戦とヨーロッパの没落
- 11.第二次世界大戦と西方国家体系の時代
- 12.冷戦時代の崩壊と中欧の復活

### 【授業計画】

西洋史についてのこれまでの素養を基礎として以上の諸問題について古典学説を検討しながら講義する。

### 【評価方法】

前・後期計二回の試験を受けることのほか、出席状況を重視して評価を下す。講義のガイド・ラインは講義担当者のまとめた著書『教養西洋史』(南窓社)に記述されている。

### 【テキスト】

<参考文献>

蠟山道雄・中村雅治共編 『新しいヨーロッパ像をもとめて』同文館、平成11年刊。

加藤雅彦『ライン河』岩波新書、平成11年刊。

高橋進『歴史としてのドイツ統一』岩波書店、平成11年刊。

## 異文化コミュニケーション演習2 a・b (異文化接触-欧-)

義井 博

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

太平洋戦争に至るまでの明治・大正・昭和の外交史上重要問題を取り上げ検討する。

受講者は近代日本外交史上の重要テーマを選んでその研究成果の報告を中心とする。

参加者全員の活発な討論の展開されることを期待している。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

報告したテーマをレポートとしてまとめるほか、討論状況などが評価の対象となる。

### 【テキスト】

その都度指示する。

## 異文化コミュニケーション特講3 (異文化接触-亜-)

明石陽至

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

東南アジアの政治・国際環境を明かにし、経済・社会・宗教の多様な特質を探って東南アジアの現状と展望を総合的に考察する。

前期では以下のトピックについて講義を行う。後期では履修生の研究発表を交えて論評・討論を行う。

1. 東南アジアをめぐる国際関係
2. 東南アジアの政治情勢
3. 東南アジアの経済と農業
4. 東南アジアの経済開発
5. 東南アジアの社会
6. 東南アジアの宗教

### 【授業計画】

講義を主体とするが随時討論を行う。履修生は期末に研究論文を提出。

### 【評価方法】

クラスでの討論参加と学期末の研究論文を評価

### 【テキスト】

新版 東南アジアの展望 (松本三郎・福永安Q編著 勁草書房 2,600円 1989)

ASEANの20年 その持続と発展 (岡部達味編著 日本国際問題研究所 3,300円 1987)

## 異文化コミュニケーション演習3 a・b (異文化接触-亜-)

明石陽至

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

今日、世界に在住する華人(華僑)は3000万人といわれ、その80%位の華人は東南アジアに住んでいる。彼等は各国において少数民族であるが経済的に優位にあり、また過去において現地社会に同化せず固有のアイデンティティと文化を維持して来た為に現地人の怨嗟・差別を受けてきた。彼等の存在は複合社会に種々の問題をもたらしている。

本講座では華僑を囲む問題点を探り考察すると同時に東南アジア各国が抱えている国家統合との関わりについても論ずる。

東南アジア各国における華僑の渡来の歴史・人口・種族等について入門的に考察し、彼等の経済的地位・旧植民地政府の華僑対策・1945年以後、独立国として誕生した東南アジア各国の華僑政策について論ずる。

中国人民政府の華僑政策についても検討する。

後期は特定の東南アジアの国(例えばインドネシア・マレーシア)をとりあげ、前期で履修したことを踏まえて、より深く上記に掲げた問題点を検討する。

### 【授業計画】

前期では講義が主体となるが後期では履修生による研究発表を交えて進めていく。

### 【評価方法】

クラスでの討論の参加とレポートによって評価する。

### 【テキスト】

現代南洋華僑の動態分析 (市川信愛 九州大学出版会 5,000円 1991)

華僑 (斯波義信 岩波新書(382) 620円 1995)

## 異文化コミュニケーション特講4 a・b (異文化教育)

霜田一敏

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

今日の世界の紛争は、人種差別や民族差別、宗教の違いに根を置くものが多い。同じ国のなかでも民族間の差別や対立、人種や宗教の違いが国を割ることへも発展する。少数と多数の民族、先住民族と移住してきた民族かつて征服されて連れてこられた民族、難民や働き場を求めて移住した民族など、さまざまな形で違った言語文化を持った人達が同じ国のなかで共存していることがどこの国でも見られるようになってきた。そこでは歴史的宗教的な背景からくる紛争もあろうし、経済的な利害からくる紛争もある。いずれも早急に解決しなければならない21世紀の課題である。この問題を教育学の観点から解決の方途を考究する。

前年度の講義の反省に基づくオリエンテーションを講義の導入にし、学生からの関心と問題意識を重視した次のような問題について研究する。

1. 日本のなかでの多様化・多文化の問題
2. アメリカの人種差別の歴史と文化的同化の問題
3. 英国の植民地からの移住民と文化同化問題
4. フランスの人種差別の歴史と文化的同化の問題
5. ドイツへの移民の実態と同化政策と排他運動
6. オーストラリアへの移民の歴史と先住民政策の問題
7. イランの宗教による文化的同化（イスラム化）と多文化教育
8. 中国の多民族共存の政策
9. その他学生の取り上げたい国の民族問題や多文化教育を検討する。

### 【授業計画】

受講生の関心や専門に応じて、世界のなかから一国を選択してテーマ設定を図り、その個人研究と発表に基づき集団討議を行う。受講者のレポートとテキストの講読によって授業を進める。

### 【評価方法】

授業のなかで行う講義への参加度や積極度、個人研究のレポートとその発表、更に最終段階での総括によって評価を行う。

## 異文化コミュニケーション演習4 a・b (異文化教育)

霜田一敏

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

内なる国際化の問題について、私たちの周囲にある具体的な事例を取り上げ、検討する。

国際理解や異文化理解、民族間の世代間格差の重要性が強調されている今、私たち自身の意識改革が問われている。この演習では、わが国に現存する若者文化やマスコミ文化、マンガやアニメ文化なども視野に入れ、現在社会のなかで起こっているさまざまな事件や問題状況を取り上げ、その背景にある考え方や価値意識を分析検討を行う。同じ日本社会に住んでいながら、異なった文化を持ち、異なる心理世界に住んでいる人々の行動や考え方を理解し、円滑なコミュニケーションを図るための手だてを明らかにする。

学生の関心と問題意識を重視し、私たちを取り巻く次のような社会的な問題を取り上げる。

1. 学校のなかの異文化としての子どもの問題
2. 今日の若者文化の特徴と問題
3. マスコミ文化がもたらすさまざまな問題
4. わが国のジェンダーに関する問題
5. 障害者の世界の理解と差別の状況
6. 部落差別の歴史と現在
7. アイヌ文化の理解とわが国の民族政策
8. わが国の人々の外国人に対する排他意識と問題
9. 在日外国人の実態と共存の問題
10. 地域文化の特色と交流、文化保存の問題

### 【授業計画】

受講生の関心や専門に応じて問題と選択テーマを設定し、その個人研究と発表に基づき集団討議を行う。

受講者のレポートを中心に演習を進める。

### 【評価方法】

演習への参加度や積極度、個人研究のレポートとその発表、更に最終段階での総括論文によって評価を行う。

### 【テキスト】

内なる国際化（増補改訂版 初瀬龍平 三嶺書房 1,800円）

## 異文化コミュニケーション特講5 a・b (比較教育)

渡辺かよ子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

異文化コミュニケーションにおける教育学研究の方法論的特徴、教育研究における諸アプローチの意義とそれぞれの限界を理解した上で、共通課題と個別課題の二つから構成する。共通課題としては異文化コミュニケーション、とりわけ比較思想や比較教育の分野の論文批判の手法を学び、個別課題については参加者との協議に基づき各自のテーマを決定して、修士論文の完成に向けて論文執筆指導を行なう。その際、論文執筆の方法、研究方法、論文の章節ごとの検討等、適宜、修士論文の完成に必要な指導を行なう。

- 前期：1. 教育学方法論  
2. 論文批判  
3. 個別論文指導  
後期：1. 論文批判  
2. 個別論文指導

### 【授業計画】

事前に提出されたテキストに関するレポート、論文に関する討論、ならびに個別指導。

### 【評価方法】

個別課題に関するレビューと修士論文に向けた各自の課題の進捗度。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考書籍】

知的複眼思考法 (荻谷剛彦 講談社)

## 異文化コミュニケーション演習5 a・b (比較教育)

渡辺かよ子

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

「文化」および「コミュニケーション」としての教育に関する基礎理論を講読・講義し、異文化コミュニケーションの視点から各国の教育状況と教養論、その背景を比較検討する。とりわけ同化主義、分離主義、多元主義、多文化主義に基づく日本と諸外国の教育や教養の在り方を検討しながら、国際化社会における「日本的」教育や教養思想の問題点と課題を論究する。

### 【授業計画】

前期：教育とコミュニケーションに関する基礎理論の検討

1. 比較教育と学校文化：多元価値時代の教育
2. コミュニケーションとしての教育と人間形成
3. ヒューマニズムと教養教育論
4. モダンとポストモダンの教育思想

後期：高等教育論と教養論

1. 高等教育に関する基礎理論
2. 大学制度の発展：西洋・非西洋の大学と教養  
世界システムと文化的従属としての大学と教養
3. 日本の高等教育における多文化教育と教養：  
異文化コミュニケーション能力としての教養

### 【評価方法】

平常レポートと討議。

### 【テキスト】

使用せず(資料配布)。

### 【参考書籍】

誰でも何でも学べる大学(アシューピー 玉川大学出版部)  
世界の教育改革(岩波講座「現代の教育」第12巻)  
多文化社会と教育改革(河内徳子編 未来社)  
対話—教育をこえて(イリイチ、フレイレ 野草社)  
思想としてのコミュニケーション(尾関周二編 大月書店)  
教師と学生のコミュニケーション(ブルデュー 藤原書店)  
コミュニケーションと人間形成(岡田敬司 ミネルヴァ書房)  
比較高等教育論(アルトバック 玉川大学出版部)  
普遍主義対共同体主義(ラスマッセン編 日本経済評論社)  
知識人とは何か(サイド 平凡社)

## 異文化コミュニケーション特講6 (ジェンダー)

國信潤子

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

ジェンダーとは社会文化的に形成されたものとして認識、理解されている女性、男性である。なぜ男女の2つのみなのか、またその差異は日常性の中でどのように説明されているだろうか。さらに「生物学的性差」とされているものはいかに認識されているのかについても検討する。また人は出生後、親や友人などから養育、しつけ、教育を受け、マスメディアの影響を受けて二極化されたジェンダー格差を学習してゆく。それが結果として現代では社会的に共有された女らしさ、男らしさとなり、性抑圧形成の一要因となっている。この講座ではジェンダーについてその形成過程、性別役割分業・性差別の実態について検討する。また、近年のジェンダー、セクシュアリティ論争の各種資料を読む。

### 【授業計画】

講義、講読形式と討論を併用。

### 【評価方法】

授業への積極的貢献、発表内容、期末ペーパーの総合評価による。

### 【テキスト】

授業において随時紹介する。

## 異文化コミュニケーション特講7 (国際交流)

榎田勝利

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

国際交流の意義、目的は時代とともに変化してきている。戦後の日本の国際交流の歴史的諸相から日本の社会の対応、変化を検証する。特に、日本の地域の国際化、国際交流における民間の役割、行政の役割について具体的事例を踏まえ考察する。

#### 1 戦後の国際交流の意義の変遷

- 1) 1950年代 (国型国際交流の展開)
- 2) 1960~70年代 (国際交流の転換期)
- 3) 1980年代 (国際化シンドローム)
- 4) 1990年代 (共生への道を探る国際交流)

#### 2 「地方の時代」と「地域の国際化」

- 1) 地域の国際化の背景・意義・目的
- 2) 地域の国際化の施策

#### 3 地域の国際交流の現状と課題

- 1) 多様化・複雑化する国際交流
- 2) 行政主導による地域の国際化の推進と国際貢献
- 3) 民間国際交流の活発化と組織・財政基盤の弱さ
- 4) 内なる国際化の進展
  - a) 変革を迫られる地域社会と住民意識
  - b) 多文化共生のための環境づくり

#### 4 国際交流プログラムの評価

- 1) 評価の目的・方法
- 2) 評価の専門家育成

### 【授業計画】

講義と各課題による個人の発表に基づいて討論を行う。

### 【評価方法】

クラスでの発表・討議への参加度と課題研究レポート

### 【テキスト】

国際交流入門 (榎田勝利監修 アルク)

### 【参考書籍】

実践国際交流 大阪国際交流センター発行  
国際文化交流の政治経済学 平野健一郎編 勁草書房  
地球市民ネットワーク 面受敏浩著 アルク  
国際プログラムオフィサー GAP著 アルク

## 言語コミュニケーション特講1a・b (応用言語学:英語教育)

松本青也

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

応用言語学 (英語教育)

第二言語習得に関する内外の研究成果をもとに、異文化コミュニケーション能力の養成を主眼にした次代の学校英語教育の可能性と課題を、様々な角度から考察する。

### 【授業計画】

1. 英語教育の歴史
2. 日本における学校英語教育の問題点
3. 応用言語学と英語教育
  - ・日英対照言語学
  - ・第二言語習得理論 (S L A)
  - ・社会言語学
4. マルチメディアと英語教育
5. 英語教授法

### 【評価方法】

研究発表及び論文。

### 【テキスト】

未定。

## 言語コミュニケーション演習1a・b (応用言語学:英語教育)

松本青也

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

応用言語学の分野の中でも、特に日英対照言語学、第二言語習得理論、および言語政策に焦点を絞り、最新の研究成果にあたりながら、研究仮題の選択、文献調査、研究題目の設定から研究方法と論文の構成・形式まで、独創的な研究のための指導を行う。

### 【授業計画】

研究題目に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、項目ごとに研究発表と議論を積み重ねる。

### 【評価方法】

研究発表、論文の総合評価。

### 【テキスト】

未定。

**【授業の概要】**

日本語教育の過去と現在の課題を考察する。

日本語教育は、1945年を画期にその目的と内容を大きく変えた。コミュニケーションのために、日本語を新たな手段とする地域が現在変化してきている。また国語と日本語の境界が教育現場でも取り払われつつあるようである。日本語教育の過去からの教訓と、現在の問題点を探求する。

**【授業計画】**

- 1 1945年以前の日本語教育
- 2 1946年以降、賠償留学生の日本語教育
- 3 外国人のための日本語教育から
- 4 外国語としての日本語研究へ
- 5 日本経済のグローバル化と日本語
- 6 「日本語学」の浸透
- 7 非永住者（定住者）と日本語教育
- 8 地域と日本語教育
- 9 コミュニケーションと国語教育の限界
- 10 マルチメディアと日本語教育

以上について、講義と討論を行う。

なお、講義の応用言語学日本語教育は、第2言語の習得と母語の維持、その背景となる文化と言語の実際について問題を分析することに焦点がある。

**【評価方法】**

出席すること。

**【テキスト】**

特になし。各自が参考とする書籍を用意すればよい。

**【授業の概要】**

日本語教育の課題を調査研究し、問題の解決をする。

日本語教育の実情とデータの収集を行い分析する。

日本語とその歴史や教育、日本語研究理論を内容とする日本語学だけでなく、言語と社会、文化論、言語教育理論と実践、とりわけCALLなどにも視点を持つこと、そして研究の立場を持つことが重要である。

演習授業であるので、参加者がプレゼンテーションを行い、発表について議論をする。

**【授業計画】**

演習ガイダンスのあと、個別にテーマを設定する。

次の手順で調査発表を行う。

- ①テーマ届け
- ②テーマについての予備研究
- ③先行文献探索
- ④調査実行
- ⑤調査発表と議論

なお、分析と理論は方法論について、たてるとよい。

この演習授業は論文作成を目的に発表と議論を行うので、すでにテーマについての文献を渉猟し研究史に着手しておくことがのぞまれる。研究科専攻に入学時のおりテーマをいくつかたてて実行することを進める。

**【評価方法】**

プレゼンテーションの内容による。

**【テキスト】**

特になし。

## 言語コミュニケーション特講3 (応用言語学:社会言語学)

B. サン・ジャック

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

社会言語学は、言語の構造およびその伝達機能に対する我々の理解を高めることを目指している。言い換えれば、社会言語学においては、言語に対する理解を深めるためにその社会を研究するのである。第二言語習得を目指すならば、native speakersの社会的言語運用に際しての知識の態度を見習うべきである。それぞれが、伝達能力 (communicative competence) であり、現代社会言語学の目的である。

このコースで学ぶこと：

- ・ 言語の科学的研究
- ・ 言語と社会の関係
- ・ 地域方言、社会方言
- ・ コードの選択、二言語使用と多言語使用 (bilingualism)
- ・ 言語変化
- ・ 言語-文化-思想
- ・ 連帯と丁寧表現
- ・ 行為と会話-会話のいくつかの特徴
- ・ 言語と性

ゼミの使用言語は、参加院生の希望により英語又は日本語

### 【評価方法】

Presentations

### 【テキスト】

Ronald Wardhaugh, *An Introduction to Sociolinguistics*, Oxford:Blackwell, 1992

## 言語コミュニケーション特講4 a・b (英語コミュニケーション)

ジョリー幸子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

英語を意思疎通の媒体として使用する時、必要な知識 (linguistic competence) とその運用技術 (linguistic performance) について学習することが当クラスのテーマである。

Introduction : English Promotes International Communication

1) The Gift of Language 2) English as an International Language

3) The International Vocabulary of English 4) The Difficulties of Speaking English

5) Writing English Is Important 6) Learning English Can Help You

7) Techniques for Learning English 8) How to Communicate in English

Conclusion : English and International Communication

### 【授業計画】

下記のメインテキストを機軸として、上記の内容に沿って受講者の経験や意見を交えながら行うディスカッション形式で進行する。

### 【評価方法】

授業中のディスカッションにおける発表能力、参考文献の読解力、そして期末に提出するレポート/プロジェクトを合わせ、総合的に評価する。

### 【テキスト】

1) English and International Communication (国際化とコミュニケーション). Joan McConnell, 宮町誠一注解.

Seibido, 1999, ¥1,600.

2) Different Realities - Adventures in Intercultural Communication. Joseph Shauls / Juri Abe.

MAN'UN - DO, 1997, ¥1,700.

## 言語コミュニケーション演習4a・b (英語コミュニケーション)

ジョリー幸子

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

異文化コミュニケーションに関連する各々の履修生の選んだテーマに沿って適切な修士論文指導を実施する。

### 【授業計画】

修士論文作制のために設定された中間発表と、口頭試問に合わせて、各々のスケジュールを組み、テーマを決定、文献録作成、研究方法、論文記述等について指導する。

### 【評価方法】

論文作成の過程と、論文そのものについて総合的に判定する。

### 【テキスト】

各自のテーマに沿って、その都度適宜に選択、指示する。

### 【参考書籍】

Larry A. Samovar, et al. (1997).

Intercultural Communication, Wadsworth Publishing Co. New York.

本名信行, et al. 異文化理解とコミュニケーション (1999)、三修社

## 言語コミュニケーション特講5a・b (中国語コミュニケーション)

馮富榮

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

言語をその構造面（文法）といった側面から捉えるだけでなく、文化や社会といった側面からも多角的に捉えることをテーマとする。この授業では、中国語を柱とし、主として日本語との比較をしながら、両言語の違い、また両言語を支えている両国の文化・習慣及び思考様式の違いを探ってみる。いわば、語用論という視点からも言語現象を分析してみる。

### 【授業計画】

毎回、一名のレポーターを決め、テキストの内容に沿ってレポートをするか、もしくは関心のある研究論文についてレポートをする。その後、レポートの内容について全員でディスカッションを行う。

### 【評価方法】

レポートの成績に授業参加の積極性、研究姿勢及びその情熱を加味して総合的に判断する。

### 【テキスト】

未定。

## 言語コミュニケーション特講6 a・b (日本語コミュニケーション)

窪田守弘

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

身のまわりで話されている何げない言葉に心をとどめ、その意味や背景を調べていくと、意外にも奥行きが深くてももしろい発見をすることが多い。特に、現代日本語の変化は激しくてその実態はなかなか把握しにくいですが、映画やテレビの画像の様々な場面では、多くの表現形式が台詞として発せられていることによっても分かる。そこで本講義では、日本語をコミュニケーションという視点から、テレビや映画というマスメディアを通して考えていく。

#### 1) 日本語コミュニケーション a

本講義では、日本と外国の言語や文化の基礎的な知識を有名な映画やテレビのドラマを教材として学ぶ。そして、映像の中で言語表現がどのようになされているかを分析し、理解を深めるようにする。

#### 2) 日本語コミュニケーション b

後期には、日本語コミュニケーションの新しい講義の方法として映像を中心に進める。そのために、種々の言語と文化の在り方を、映画やテレビというマス・メディアを通して比較し、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することとしている。そして、この日本語コミュニケーションは、対照言語学という立場から日常生活のコミュニケーションの在り方を、コンピュータを使って科学的に分析し、検討する考えである。

### 【授業計画】

毎回テーマを提示し、それに従って発表を行なう。そこから論文を作成するための基礎技術を身につける。

### 【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず(資料配布)。

## 言語コミュニケーション特講7 a・b (翻訳技術)

トマー・トドロヴィック

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

翻訳技術

翻訳技術のそれぞれの特徴の研究。

### 【授業計画】

翻訳の特徴の理解力を高めるために、日本語、フランス語、英語の文献を利用し、特に翻訳の理論と技術に関するさまざまな問題点を論じる。

### 【評価方法】

レポートによって評価。

### 【テキスト】

“Translation and Translating-Theory and Practice”

Roger T. Bell, Longman, London, 1991, その他。

## 言語コミュニケーション演習7 a・b (翻訳技術)

トマー・トドロヴィック

2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

翻訳技術

翻訳技術に関するさまざまな文献の研究。

### 【授業計画】

さまざまなテキスト（文学作品、学術論文、科学文献など）を利用し、特に英語、フランス語と日本語の翻訳をし、学生の翻訳技術力を高める。

### 【評価方法】

レポートによって評価。

### 【テキスト】

“Professional Issues for Translators and Interpreters”

Deanna L.Hammond, ed., John Benjamins, 1994.

## ビジネスコミュニケーション特講1 (金融システム論)

藤井正志

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

わが国においても、平成9年12月の金融システム改革により、米国にならない純粋持株会社の設立が解禁された。金融業の持株会社については、子会社と実質子会社が定義され、銀行持株会社と子会社グループとの支配・被支配の関係が明確化した。本講義では、金融制度改革の日米比較を通して銀行持株会社および銀行の規制・監督体制と金融システムのあり方について論ずる。

### 【授業計画】

第1～12講 日米における業際規制とその法的なバックグラウンド、業務の内容別にみた規制緩和の流れ、金融検査および監督体制を検討し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について解説する。

### 【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

藤井正志著『金融業の情報開示と検査・監督』東洋経済新報社

## ビジネスコミュニケーション演習1 (金融システム論)

藤井正志

2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

米国・日本の金融制度、法律や規制等の歴史的な変革の事例の比較分析を通して、金融システムのあるべき姿を探究する分析能力を高める。

### 【授業計画】

第1～12回 日米における業際規制とその法律的なバックグラウンド、業務の内容別にみた規制緩和の流れ、金融検査および監督体制を検討し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について演習する。

### 【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

藤井正志著『金融業の情報開示と検査・監督』東洋経済新報社

## ビジネスコミュニケーション特講2 (銀行ディスクロージャー論)

藤井正志

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

金融市場の国際化を迎えて、わが国においても市場の監視により銀行ディスクロージャーの適正性が峻別され、銀行の健全性を確保するために機能していくことが必要である。こうした観点から日本・米国等の各種金融機関および監督官庁等のディスクロージャー制度を比較検討することにより、銀行ディスクロージャーのあり方について論ずる。

### 【授業計画】

第1～12講 日米の、銀行の不良債権、金融検査結果等に関するディスクロージャーおよび情報公開法などディスクロージャーの適正性を確保するための行政上の措置を比較検討し、銀行ディスクロージャーのあり方について解説する。

### 【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

藤井正志著『金融業の情報開示と検査・監督』東洋経済新報社

## ビジネスコミュニケーション演習2 (銀行ディスクロージャー論)

藤井正志

2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

米国・日本の各種金融機関、監督官庁等のディスクロージャー制度の比較分析を通して、銀行ディスクロージャーの国際スタンダードを探求する能力を高める。

### 【授業計画】

第1～12回 日本の、銀行の不良債権、金融検査結果に関するディスクロージャーおよび情報公開法など、ディスクロージャーの適正性を確保するための行政上の措置を比較検討し、銀行ディスクロージャーのあり方について演習する。

### 【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

藤井正志著『金融業の情報開示と検査・監督』東洋経済新報社

## ビジネスコミュニケーション特講3 (ビジネスソリューション)

梅田敏文

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

ビジネスの場面で発生する種々の問題に対するアプローチと問題解決技法を解説し、ビジネスソリューション立案に必要な知識、スキルを概説する。

### 【授業計画】

- 第1講 企業と問題解決
- 第2講 ビジネスプロセスの枠組み
- 第3講 問題解決のための基本的な概念
- 第4講 問題解決へのアプローチ
- 第5講 問題解決技法・創造技法
- 第6講 問題解決の原因分析
- 第7講 検討会議の効果的な進め方
- 第8講 計画策定の技法
- 第9講 ソフトシステムメソドロジー (1)
- 第10講 ソフトシステムメソドロジー (2)
- 第11講 ソフトシステムメソドロジー (3)
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

出席点40%、レポート/参画意欲その他60%で評価する。

### 【テキスト】

プリントを適宜、配布する。

## ビジネスコミュニケーション演習3 (ソリューション実践)

梅田敏文

2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

各自の問題意識とテーマに沿った問題を想定し問題解決技法、解決手順を適用することにより、具体的なデータ収集や分析を通してソリューションを策定する。研究の中間結果は、プレゼンテーションツールを活用して発表し、集団討議を通じたアドバイスを心得て研究を推進し最終報告書を作成する。

### 【授業計画】

- 第1講 演習ガイダンス
- 第2講 問題の設定(1)
- 第3講 問題の設定(2)
- 第4講 問題状況の探索
- 第5講 データ収集と分析
- 第6講 解決策の策定
- 第7講 各自の検討状況の中間発表
- 第8講 新たな状況探索
- 第9講 データ再収集と分析
- 第10講 解決策の改善
- 第11講 最終発表
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

出席点40%、最終レポート/参画意欲その他60%で評価する。

### 【テキスト】

プリントを適宜、配布する。

## ビジネスコミュニケーション特講4 (ビジネスソリューション応用)

梅田敏文

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

発生型の問題に対して、その構造がより不明確な設定型の問題を取り上げ、その問題に対するアプローチを具体的な手順を踏まえ検討する。

### 【授業計画】

- 第1講 企業と問題解決
- 第2講 ビジネスコンサルティング
- 第3講 問題解決へのアプローチ
- 第4講 活動計画
- 第5講 仮説設定
- 第6講 データ収集
- 第7講 分析
- 第8講 ファインディング
- 第9講 結論
- 第10講 報告書の作成
- 第11講 発表
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

出席点40%、レポート/参画意欲その他60%で評価する。

### 【テキスト】

プリントを適宜、配布する。

## ビジネスコミュニケーション演習4 (ソリューション文書化)

梅田敏文

2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

ビジネスコミュニケーション演習3の報告書、研究成果をベースに、各自の研究テーマを更に深め最終論文の作成を行う。問題解決へのアプローチ、問題解決技法、解決手順の評価、論文作成技法、作成手順について個別に指導を行い、論文作成を支援する。

### 【授業計画】

- 第1講 演習ガイダンス
- 第2講 論文作成の技術(1)
- 第3講 論文作成の技術(2)
- 第4講 個別指導(1)
- 第5講 個別指導(2)
- 第6講 個別指導(3)
- 第7講 各自の論文作成状況の中間発表
- 第8講 個別指導(4)
- 第9講 個別指導(5)
- 第10講 個別指導(6)
- 第11講 最終発表
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

最終論文の内容で評価する。

### 【テキスト】

プリントを適宜、配布する。

## ビジネスコミュニケーション特講5 (アジアの通貨危機)

森下允之

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

アセアンは、1980年代後半より97年7月の通貨危機前まで目覚ましい経済成長を達成し、「東アジアの奇跡」と称賛されていた。

そのアセアン経済崩壊の原因として、各国の構造問題に加え、肥大化する国際短資が指摘されている。

今回の危機の引き金となった通貨下落、各国金融システム、企業債務問題に焦点をあてて論じる。

### 【授業計画】

- アセアン経済の発展
- 通貨危機の発生
- 危機後の経済情勢
- 金融システムの現状と再生策
- 企業債務問題と各国政府の対応策
- アセアン再生と日本の役割
- 以上を12回にわけて講義する。

### 【評価方法】

各授業での質疑応答とレポートによる。

### 【テキスト】

「通貨危機がアセアン企業・金融システムに与えた影響と再生策」1999年3月 海外投融資情報財団

## ビジネスコミュニケーション演習5 (アジアの通貨危機)

森下允之

2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

特講5「アジアの通貨危機」受講で全体像を把握したのち、各国経済状況、金融システム改革、為替動向、日系企業の活動状況を国際機関統計、現地資料、日系企業アンケート結果などを基にまとめ、最近の回復状況を調査・検証する。

特講5を受講し、かつ英語の読解力を有することか必須。

### 【授業計画】

各国の経済回復状況

日欧米銀行からの資金流出入動向調査

金融セクター再生の現状

日系企業の動向

円の国際化とアジア諸国の為替相場動向

以上を12回の演習で調査・検証する。

### 【評価方法】

演習内容と最終レポートによる。

### 【テキスト】

随時授業で書籍、内外新聞記事、現地資料、専門誌記事および各国統計集などを紹介する。

活字のみならずインターネットを活用する予定。

## ビジネスコミュニケーション特講6 (欧州統一通貨ユーロ)

森下允之

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

1999年から欧州統一通貨ユーロが導入された。世界の主要国が国家主権の重要な要素である通貨主権を放棄したのは歴史上初めてのことであり、画期的である。ここに至るまでに、20世紀前半の二度にわたる悲惨な戦争およびその再発を防止するため20世紀後半の統合、共存共栄への地道な努力があった。

これらを論じる。

### 【授業計画】

世界大戦の原因と反省

実体経済の統合

ローマ条約、欧州経済共同体の発足

欧州単一市場の成立

通貨統合への道のり

共同フロート、スネーク

欧州通貨システム

東西ドイツ統一のインパクト

マーストリヒト条約

ユーロ発足

以上を12回にわたり講義する

### 【評価方法】

各授業での質疑応答とレポートによる。

### 【テキスト】

村瀬哲司「ユーロへの道のり」

国際金融1031号～34号

## ビジネスコミュニケーション演習6 (欧州統一通貨ユーロ)

森下允之

2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

特講6でユーロ誕生までの系譜、背景を学んだ後、新欧州統一通貨が国際通貨制度、金融資本市場、銀行、企業に与える影響を調査・検証する。

特講6の受講および英語の読解力が必須。

### 【授業計画】

国際通貨の要件

準備通貨、決済通貨、表示通貨としての可能性

ドル、ユーロ、円の3極体制

ユーロの問題点

欧州金融機関へのインパクト

欧州金融資本市場へのインパクト

日系企業の欧州戦略へのインパクト

以上を12回の演習で調査・検証する。

### 【評価方法】

各授業での質疑応答とレポートによる。

### 【テキスト】

国際通貨研究所「ユーロ後のEU金融証券取引」

この他随時、専門誌の記事、論文を紹介する。

## 比較文化論 (日米)

ジョリー幸子

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

アメリカの文化的背景を学習することにより、自身の国の文化をより深く理解する(自分を知る)ことが当クラスのテーマである。

- 1) Basics of Culture
- 2) Communication Styles
- 3) Raising Children
- 4) Quality of Life
- 5) Student Lifestyles
- 6) Marriage and the Family
- 7) Hamburgers and Sushi
- 8) University Education
- 9) Women
- 10) Money
- 11) Working Life
- 12) Law
- 13) Space and Silence
- 14) Television Commercials
- 15) Going to the Doctor
- 16) Epilogue : Canada

### 【授業計画】

上記の内容に沿って、予習してきた教材をディスカッション形式で進めていく。

自己の経験や意見、感想等を積極的に発信していただきたい。

### 【評価方法】

授業中でのディスカッション能力、関連する文献の読解力、及び期末に提出するレポート/プロジェクト等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

1) Beneath the Surface. 日米文化比較論. Paul Stapleton. 伊藤章編注.

SEIBIDO, 1997, ¥1,500.

2) Common Sense : America and Japan 日米文化のちがひ

Wayne I. Phillips and Fujio Nakano. Seibido, 1999, ¥1600

## 比較文化論（日欧）

トマー・トドロヴィック

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

比較文化論（日欧）  
ヨーロッパ文化と日本文化の比較

### 【授業計画】

ヨーロッパ連合の主な諸国（フランス、英国、ドイツ、イタリア、スペイン、等）と日本におけるさまざまな文化活動の状況と問題点に関する最近のデータを利用して比較を行う。

### 【評価方法】

レポートによって評価。

### 【テキスト】

使用せず。

## 比較文化論（日亜）

倉沢愛子

集中 1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

日本＝インドネシア関係史を再考する中で異文化接触の問題点を考える。

日本と東南アジアの関係の歴史を、海を渡った日本人の軌跡を追いながら考察する。日本と東南アジアの繋がりは、遠く16世紀の大航海時代にまで逆上ることができる。各地につくられた南洋日本町はその当時のものである。その後鎖国で途絶えた関係は明治期になって「唐ゆきさん」の渡航という形で再開される。引き続き小商人たちの進出をへて、20世紀になってからは大企業の駐在員の渡航も始まる。やがて国策としての南進が始まり、最後は「大東亜」戦争における侵略と占領の時代が続く。戦後は日本の経済復興に伴って、1960年代後半から大規模な経済進出が始まり、今日経済協力、資本投資、貿易など様々な分野で多くの日本人が東南アジアを舞台として活躍している。また、東南アジアの諸国からも、留学生として、あるいは労働者として多くの人々が日本へ来るようになった。この演習では、そういった人々の移動を中心に、日本と東南アジアの歴史的な関係を総合的にとらえ、その異文化接触の一端を覗いてみたい。

### 【授業計画】

ビデオ等の映像を使いながら基本的には講義形式をとる。しかし全員参加のディスカッションも交えながら進める。

### 【評価方法】

ディスカッションへの参加の度合いによって評価する。

### 【テキスト】

参考書※

二十年目のインドネシア（草思社 1992）

ふたつの紅白旗（木犀社 1995）

南方特別留學生が見た戦時下の日本人（草思社 1997）

女が学者になるとき（草思社 1998）

※希望者には、授業の最初の日に直接販売します。

## コミュニケーション研究法 (統計) a・b

石橋善弘

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

統計学statisticsは国家stateに関する数量的データの集取・整理・要約に起源を発するが、今日では社会科学・自然科学・工業・商業・農業・医学などで主要な研究方法として応用される学問分野に成熟している。

基礎的なデータ処理から始めて、データの背後にある母集団の特性を定量的に議論するための数学的手法について学ぶ。

### 【授業計画】

講義の外にグラフの作製や具体例の計算などを行なう。

### 【評価方法】

レポートを主とする。

### 【テキスト】

使用しない。参考書は追って指示する。

## 個人コミュニケーション特殊研究1

杉本助男

1～3年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

環境刺激が生体の行動に及ぼす効果について、その個人差と脳内情報処理過程との関連について考究する。また、脳損傷者にみられるディスコミュニケーションについて神経心理学的に考究する。

### 【授業計画】

1年次は、各自の研究テーマについて、文献発表と研究計画を個別に指導する。

2年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書を提出させ、これについて綿密な検討を行った後に、予備実験を行い、その結果を報告させ、本実験への指導を行う。

3年次は、2年次の本実験を引き続き行い、その結果について中間発表を行い、学位論文に結実するよう指導する。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 個人コミュニケーション特殊研究2

加藤義信

1～3年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

人間と環境とのコミュニケーションにおける空間的次元の諸問題に、「理解される空間」と「生きられる空間」の2側面からアプローチするための方法論を検討する。

### 【授業計画】

3年次は、各自の研究テーマに沿って、行なった実験結果の整理・分析と博士論文につながるまとめを個別に指導する。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 社会コミュニケーション特殊研究1

宇野善康

1～3年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

イノベーション普及過程の解明。

第1年次においては人々の行動様式、人の作った物、あるいは人の思想や思考方法等がさまざまな社会の中でどのようにして普及、変容していくのかを新しい社会科学である普及学の諸法則を参照し乍ら考究する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

### 【授業計画】

上記の通り。

### 【評価方法】

期末試験もしくはレポート提出により評価。

### 【テキスト】

適宜指定します。

## 社会コミュニケーション特殊研究2

植村勝彦

1～3年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心をもつテーマを設定し、深い学識と綿密な論理構成のもとに、その最先端を拓き追究することを可能にするよう、支援・助言すること。そして、最終的には学位審査に値する博士学術論文に結実するようにすることを目標とする。

第1年次においては、修士論文およびその後の展開を含めて、学会誌に投稿する論文の作成指導を中心とする。

第2年次においては、各自が選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献レビューなどについて指導を行い、加えて、新たな研究を調査として実施させ、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。

第3年次においては、第2年次に実施した調査をまとめ、学会誌に投稿するための支援を行うとともに、これらの論文を含めて、博士学位審査論文として提出するに必要な事柄の指導を行う。

また、他者を指導するという経験が、自己の研究を高めるうえで有効であることを確認させる目的で、博士課程学生には研究指導として、学部学生の卒論指導にも参加する。

### 【授業計画】

特には定めない。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 臨床コミュニケーション特殊研究1

大原健士郎

1～3年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

第1年次においては、家族内人間関係から始まり、依存の心理学、精神病理学を講義する。依存の破綻は精神病、躁うつ病、アルコール・薬物の依存に発展する。病態像によって、治療的アプローチは異なってくる。各種心理療法、中でもわが国独自の森田療法の理解を深める。第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

### 【授業計画】

座講による講義よりも、実際に神経症やうつ病と接し、心理的な検査、面接の方法、カウンセリングの方法などを指導し、患者を通じて研究をするように指導する。必要に応じて、専門病院に泊まり込んで、臨床の実際を学ばせたい。

### 【評価方法】

- ①心理検査の手抜、判読、カウンセリング場面での評価
- ②研究テーマについての研究論文の評価

### 【テキスト】

特に定めない。必要に応じて印刷物を配布する。

## 臨床コミュニケーション特殊研究2

加藤雄一

1～3年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

第1年次では、精神症状を聴取あるいは観察によって正確に把握し分類し、それらを精神疾患の中に位置づける方法と、その精神疾患に至る道筋を理解し、心理療法の場面で利用する方法を分析し論ずる。また心理療法の場面における治療者と患者の心理的交渉の意義と問題点を分析し考察する。第2年次では、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。第3年次では、中間発表を踏まえて、さらに研究方法の問題点および改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文の予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するようにさらに指導を行う。

1. 精神医学的な病態と治療（身体的療法と心理療法）に関する基本的な知識と検討
2. 精神医学的・臨床心理学的に、現代においてトピックスとなっている諸問題に関する検討と考察。
3. 精神病理学的方法論および治療論に関する検討と考察
4. 各自の選択した研究テーマに関する研究方法および文献に関する検討と考察

### 【評価方法】

レポート提出による（主として治療論に関する問題）。研究レポートの提出その他により評価する

### 【テキスト】

とくに指定はしない。その都度適当な文献をあげる。

## 臨床コミュニケーション特殊研究3

江口昇勇

1～3年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

心理療法の本質的機能を、クライアントに内在する自己治癒能力の活性化にあるとし、そこに至る方法の重要な方法論のひとつとして筆者は「夢分析」を位置づけている。さらに、夢に登場する自己治癒のためのシンボルをクライアントとサイコセラピストが二人して、共同で育て上げることに専念することが心理療法であると理解している。筆者はこうした夢やイメージの中に登場するシンボルを、さらに徹底して味わうこと、体験し尽くすことの重要性に注目している。それはユングが開発したアクティブ・イマジネーション（能動的想像）と呼ぶものの一種であるが、筆者は球体の中でそのイマジネーションを味わう方法論を開発中で、筆者はそれを「球体アクティブ・イマジネーション体験」と名付けている。この方法論による基礎実験の積み重ねと、臨床場面での応用研究を進めたい。

夢分析や、イメージを扱った心理療法を概括し、そこでのシンボルの現れ方、そしてシンボルの扱い方を考究する。そして、「球体アクティブ・イマジネーション体験」の危険性の予知、安全な臨床適用の工夫、そして、その効果を明らかにしていくこととしたい。球体アクティブ・イマジネーション体験と同時進行で、バーンズの「シンボル・センタード描画法」によるシンボルの表現方法との相互比較も考究していきたい。

### 【授業計画】

内外の文献の収集と整理といった基礎的学習と、実験・臨床への適用実績を積み重ねていくことになる。参加者は各々の問題意識と照らし合わせて、相互の関連性を模索しながら、進めていくことになる。高度の専門性と臨床的实力を要求されるものとなる。

### 【評価方法】

授業への参加態度、討論への積極的関与の姿勢、発言の内容を成績評価の重要な視点とする。特にレポートは課さないが、その代わりに平常点を厳しく査定する。自分なりの意見のまとめ方、表現方法、内容の深さ、他の人の意見への対応など、細かく評価するつもりである。

### 【テキスト】

授業中にその都度、提示する。

## 異文化接触特殊研究 1

義井 博

1～3年 前・後期 選択 4単位

### 【授業の概要】

第1年次においてはヨーロッパにおける戦争の発生をその拡大過程と関連づけながら、日本の第二次世界大戦への参戦の経緯を史的に解明するとともに、終戦外交における日本の国際関係を史的に究明する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

<前期>

序 二つの国際秩序と日本

- 1.中国の世界秩序
- 2.西方国家体系

I 明治日本の発展をめぐる外交と軍事

- 3.日清戦争論
- 4.Pax Britannicaと日英同盟
- 5.日露戦争の意義

<後期>

II 太平洋戦争への道

- 6.ワシントン体制下の日本
- 7.日独伊三国同盟締結をめぐる日本の指導者の誤断
- 8.対米開戦の決定過程

### 【授業計画】

### 【評価方法】

### 【テキスト】

<参考文献>

昭和外交史 三訂増補版(義井博 南窓社 1990年刊)  
その他はその都度指示する。

## 異文化接触特殊研究 2

明石陽至

1～3年 前・後期 選択 4単位

### 【授業の概要】

東南アジア諸国連合の国々の政治形態の比較とこれ等の国々が抱える諸問題を考察する。

本年度は「東南アジア政治学」をテキストとして東南アジア学を履修する。

前期後期を通じて以下のトピックについて考察する。

- 1.近代東南アジア地域システムの形成と動揺
- 2.地域国際関係とリージョナリズム
- 3.国家の政治と国民の政治
- 4.多元的社会の構造と変容
- 5.暴力・開発・人権

第1年次においては東南アジア諸国連合(ASEAN)の国々の政治形態を比較しながら、各国の抱える諸問題(人種問題、人権、開発等)を研究し、この地域の文化の多様性を考察、そして日本の文化を比較する。ASEAN諸国と関係の深い日本、中国、米国との外交問題について分析を行う。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点および改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

### 【授業計画】

履修生には十分な準備をしてくることを期待し、クラスでは討論を中心として授業を進めてゆく。

期間中、受講生は1乃至2回の研究発表を行う。

### 【評価方法】

クラスでの討論参加とレポートを評価する。

### 【テキスト】

東南アジア政治学(山本信人他編著 成文堂 2,500円 1997)

東南アジア世界の実像(淵本康方他編著 中央経済社 1,900円 1994)

## 異文化教育特殊研究 1

霜田一敏

1～3年 前・後期 選択 4単位

### 【授業の概要】

3年間の大学での研究で博士論文が作成できるように個別指導を行う。

学生各自の3年間の研究計画に基づいた研究に対する指導

### 【授業計画】

第1年次においては、自分の研究の異文化コミ・異文化教育の全体のなかでの位置付けと意義を確認し、教育学の観点から明確にし、人間形成上の問題を考究する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行う。学期末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

### 【評価方法】

学位論文作成の進度に応じて評価を行い、論文審査に合格することを最終評価とする。

### 【テキスト】

学位論文作成上の各種文献

## 異文化教育特殊研究 2

渡辺かよ子

1～3年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

教養と高等教育

第1年次においては、Cultureとしての教養および高等教育論が、近現代の日本および外国において、どのように異文化思想を選択的に受容しながら形成されてきたのかを考察し、その今日的意義を考究する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表ができるように研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点および改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備試験が行えるようにする。予備審査の結果を踏まえ、充実した学位論文に結実するよう更に指導する。

### 【授業計画】

個別指導。

### 【評価方法】

論文の進捗度。

### 【テキスト】

使用せず。

## 言語コミュニケーション特殊研究1

B. サン・ジャック

1～3年 前期 選択 4単位

### 【授業の概要】

人間がコミュニケーションを自己の文化の中で行うことを「intracultural communication (文化内コミュニケーション)」といい、他の文化に対しては「intercultural communication (異文化コミュニケーション)」と定義している。現代、いろいろな国々や地域が経済的な目的から共同体を形成する動きが活発になっているし、国々を行き来する人の流れがビジネス関係や移民などの要因から増加しているうえに、マスメディアが世界を「global village」としている。このような時代だからこそ、異文化コミュニケーションは普遍的なものではないだろうか。日本にとっても、異文化精神・異文化能力・異文化コミュニケーションを育てることが将来のために重要なことである。この授業の中では、①コミュニケーションについての学説、②異文化コミュニケーションについての学説、③異文化精神を育成するためのカウンセリングについての学説、を考察する。

・異文化コミュニケーション学：基礎概念と研究領域、異文化コミュニケーションの研究のための言語学、社会学、心理学、人類学に関連する学問についての考察、個人と異文化コミュニケーション、日本人と国際化、異文化交渉と外国語、異文化コミュニケーション competence (能力)、国際ビジネスコミュニケーション、文化的名ステレオタイプと偏見、国際社会の意義と方法、個人の文化的なアイデンティティ、研究の性格と動向。

・異文化コミュニケーションの能力と精神を養う方法とカウンセリングの学説

前期に取り扱ったテーマの中から、大学院生の個別のテーマに絞って研究を深める。

大学院生自身が選んだテーマについて研究して注釈文献 (annotated bibliography) を作成し論文を書いて研究発表 (presentation) をする。

### 【評価方法】

Presentationとレポート。

### 【テキスト】

使用せず。

## 言語コミュニケーション特殊研究2

トマー・トドロヴィック

1～3年 前・後期 選択 4単位

### 【授業の概要】

翻訳するには優れた外国語力と翻訳技術が不可欠である。本講では英語、フランス語、日本語の背景にある文化にもふれつつ、翻訳技術を多様な文献の種類を利用して講義する。

第1年次においてさまざまな分野の翻訳において確かな意味を伝えるには、その言語の背景にある文化の知識と高度な翻訳技術が不可欠である。本講では主に英語、仏語、日本語の多様な文献を利用して、翻訳の理論と技術に関するさまざまな問題点を究明する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

レポートによって評価。

### 【テキスト】

## 研究基礎

藤瀬浩司 谷口 茂 坂元 多 吉田邦彦

集中・オムニバス 1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

研究科への導入科目。大学院における学習の内容、カリキュラムの編成について解説するとともに、テーマの設定、分析・整理の方法、さらに研究の企画から成果の集約・発表にいたる研究手続きを指導する。

現代社会研究科全体および国際社会コースにおける教育課程の編成と学習方法を説明し、国際社会コースで実際に研究開発に従事する際に必要な研究方法と研究手続きを指導する。(藤瀬浩司)

まず、地域社会コースの教育過程の編成と学習方法について説明する。つぎに、同コースで実際に研究開発に従事する際に必要な研究方法と研究手続きを指導する。(谷口 茂)

メディアプロデュースコースにおける教育過程の編成と学習方法を説明し、メディアプロデュースコースで実際に研究開発に従事する際に必要な研究方法と研究手続きを指導する。(坂元 多)

都市環境デザインコースにおける教育課程の編成と学習方法を説明し、都市環境デザインコースで実際に研究開発に従事する際に必要な研究方法と研究手続きを指導する。都市・建築に関する各種の調査方法と分析方法を概観し、その後、具体的な応用事例によって方法の適用のしかたを理解する。(吉田邦彦)

### 【授業計画】

講義形式で進めるが、質疑応答や討論を適宜取り入れた。所属するコース以外のことについても注意して聴講してほしい。

### 【評価方法】

各担当講師の講義ののち簡単なテストまたはレポートで評価する。

## 研究技法 I (統計分析)

岩橋亮輔

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

統計学statisticsは国家stateに関する数量的データの集取・整理・要約に起源を発するが、今日では社会科学・自然科学・工業・商業・医学などにおける研究方法として成熟した学問分野となっている。

基礎的なデータ処理である記述統計学から始めて、確率の概念を確立し、データの背後にある母集団の統計学ともいべき推測統計学に到る思考過程を詳述する。

### 【授業計画】

講義を主とし、電卓による計算およびグラフの作製によって統計学の手法を修得させる。

### 【評価方法】

レポートの提出を頻繁に行ない理解の程度を見る。

### 【テキスト】

追って指示する。

## 研究技法Ⅱ (情報システム)

太田 裕

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

資料(データ)・情報、システムがもつ意義を考察し、これが現代社会を特徴付ける重要なキーワードであることをまず明らかにする。次いで、両者を結合した「資料・情報(処理)システム」について考察を進め、事例問題を模擬実験することで概念把握を確実にし、問題解決学上の重要技法として実践力を養う。各自の研究課題との接点を探索する。

### 【授業計画】

学習は講述と実践に大きく分けられる。前者は資料(データ)、情報、システムに関わる基礎的事項を徹底的に学習・体得し、モデル化するための多様な技法の理解に力点をおいた通常の講義であるが、後者は受講者自身がPC等を使い、実践的に学習する授業内容とする。

これによって、受講予定者が各自の研究課題を持ち、展開の最中にある院生諸氏であることと想定されることから、種々の技法を各自の研究課題に応用し、問題解決力の涵養に努める。

(注)第1講目に小テストを実施し、受講者の関連知識の一般把握を試みる。これを基本資料として、第2講目以降の講義内容・実践学習について細部提案を行い、受講者との合意を得て講義の全体を確定する。

### 【評価方法】

学習の進行は折々の、中間成果物(レポート)として提出され、報告することでチェックされる。最終段階では、学習を通じて得た研究技法が各自の研究課題進展にどのように活用されるかについて、見直し、成果を含むレポートが作成・提出されるものと期待される。これらを総合して、学習到達度を評価する。

### 【テキスト】

単一のテキストはない。

### 【参考書籍】

適時に図書・文献を紹介する。プリント等を常時配布する。

## 研究技法Ⅲ (内容分析)

石田米和

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

わが国を含む先進諸国においては、Z. プレジンスキーのいう「テクネトロニクス」社会—特にコンピュータとコミュニケーションの影響によって、文化的・心理的・社会的・経済的な諸側面が形成される—の萌芽が徐々に認められつつある。このことは、特に情報伝達機能の多様化・双方向化による情報の質的充実に支えられてのことであり、その意味で今後は、ユーティリティ(有用性)に焦点を当てたメッセージ(コミュニケーション内容)の分析がさらに重要になると考えられる。

メッセージ(コミュニケーション内容)の客観的・体系的・数量的把握と記述のための調査・研究方法(例えば、1920年代から始まった新聞記事の内容分析、世論や宣伝への応用等)の変遷を概観しつつ、基本的な方法論の修得を行い、さらに映像メッセージにおける比喩表現の解釈および解釈コードの体系化について検討する予定である。

### 【授業計画】

テキスト、配布資料、映像資料を用い、学生の発表を中心とする。

### 【評価方法】

発表内容、受講態度、レポート、定期試験による。

### 【テキスト】

未定。英文資料の併用を検討中である。

## 研究技法Ⅳ（経済分析）

太田聰一

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

現在、日本経済は厳しい状況にあり、未だ長期不況を脱していない。また、日本を取り巻く世界経済も、通貨危機、環境問題、経済摩擦など様々な問題をかかえている。これらの問題の所在を理解し、対策を講じるためには、経済理論の理解が不可欠である。本講義では、そのための基礎的なフレームワークを提供する。このフレームワークを身につけることで、現代経済が抱える諸問題についての理解を深めたい。

ミクロ・マクロ経済学の基礎を講義するとともに、それらの現実経済への応用を紹介する。とりわけ、ミクロ経済学ではゲーム理論のアプローチを、マクロ経済学では国際マクロ経済分析に重点をおいて論じる。ただし、理論の細部を叙述するよりもむしろ、理論の背後にある考え方を強調する。その上で、理論的な分析を現実問題に適用してゆく。

### 【授業計画】

講義を中心にすが、適宜学生によるプレゼンテーションを組み込む。

### 【評価方法】

出席と講義のトピックに関わるターム・ペーパーで評価を行う。

### 【テキスト】

使用せず。

## 地域社会特別講義Ⅰ（地域産業論）

谷口 茂

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

地域社会における産業の役割について、総合的、実証的に研究する。

自動車産業、情報産業、サービス業などが、地域で果たす役割について分析・検討を加え、さらにこれら地域産業が発展するための諸方策を追求する。

### 【授業計画】

講義と並行して、受講生が研究発表を行い、それについて全員で討論したい。

### 【評価方法】

出席状況、研究発表の内容、討論への参加度などをもとに、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 地域社会特別講義Ⅱ（地域交通論）

辻 紘良

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

交通は地域の産業活動とともに地域の生産活動を支える主要な基盤をなしている。講義では地域交通体に焦点を当て、その実態、問題の所在を明らかにし、将来の地域作りに向けてその整備の在り方を展望する。

### 【授業計画】

地域交通の現状と実態分析を基礎とし、情報化社会における地域作りに向け、地域交通はどのような視点で整備を進めていくとよいかを議論する。

1. 地域交通体系の現状と課題
  - ・大都市圏交通、地域圏交通の交通の現状と課題
2. 大都市の地域交通体系
  - ・都市交通とハイモビリティネットワークの形成
3. 地方圏の交通体系
  - ・地方中核都市の交通機関連活性化、地方都市の道路混雑解消

この他、交通運用計画（TDM）、交通の高度情報化（ITS）などから適宜テーマを選択し解説する。

講義と並行に最近の関連論文を読解し地域交通システムの実例や実験例を相互に提示し理解を深める。

### 【評価方法】

論文読解力や発表内容、課題提出の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

使用せず。プリント配布

<参考図書>

自動車交通の地域分析（奥井正俊 大明堂）他

## 地域社会特別講義Ⅲ（地域開発論）

竹村 弘

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

中央都市と地方との地域格差を是正し、国土の均衡ある開発を目指すため、国土計画及び各地の地域計画をいかに策定すべきかを検討すると共に、地域の主体的な政策の立案・実行能力の涵養方策を考察する。

1. 「国土計画」「地域計画」は、それぞれ国づくり、地域づくりの根幹をなすもので、今後の中部圏の産業経済の発展、または中部圏の地域づくりを論ずる上で、その考察が不可欠である。国土計画、地域計画で描かれている21世紀中部圏ビジョンについて考察する。

2. 従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、現在の「地域開発」の課題を検討する。「水俣病」等の公害問題は、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日のゴミやダイオキシンの環境問題は、暮しやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。「自分達の地域は自分達で守らなければならない」のは、歴史的教訓である。

3. 新しい地域開発の課題は、地域の自立である。従来のような中央の行政指導・補助金に依存する体制から脱却し、地域の自立を実現するためには、地方分権の推進と共に、その受け皿となる地方行政の意識改革、主体的な政策立案及び実行能力の涵養が必要であるので、その方策を研究する。

### 【授業計画】

講義主体であるが、院生各自の研究計画に従い、研究の進捗状況に応じた報告と討議を行う。

### 【評価方法】

研究進捗度、報告内容、討論参加度などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて適宜使用する。

## 地域社会特別講義Ⅳ（地域文化論）

谷沢 明

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

地域社会における物質文化と精神文化の意義を、人々の暮らしの側面から具体的かつ分析的に把握し、その継承・創生を含めて将来の地域文化の在り方について考察する。フィールドワークの事例を中心としてスライドを交えて講義をおこない、あわせて、学生の課題レポートの報告・討議を取り入れる。

### 【授業計画】

1. 地域文化とは～宮本常一の地域文化論を中心に～
2. 歴史的町並みの保存と整備～「重要伝統的建造物群保存地区」の選定と地域文化の継承～
3. 歴史的街道の整備～「歴史国道」の選定と魅力ある地域づくり～
4. まちづくりと地方自治体～地域文化を生かしたまちづくりの在り方～
5. 伝統芸能の継承と地域社会～無形・民俗文化財等の伝承を中心に～
6. 地場産業の振興と地域社会～伝統的工芸品産業の振興を中心に～

### 【評価方法】

平生の授業態度、及び課題レポートとその発表により評価。

### 【テキスト】

テキストは使用せず。適宜、資料を配付する。参考文献については授業開始時に紹介する。

## 国際社会特別講義Ⅰ（国際社会発展論）

藤瀬 浩司

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

近現代において各国が辿った経済発展や工業化の特徴を比較するとともに、全体としての世界システムの構造変化を検討し、現代の国際問題の性格を明らかにする。

最初に世界経済を構成する要素について理論的に考察し、次に世界経済が辿った長期の歴史過程と各この工業化の諸例を分析し、最後に20世紀の世界経済の展開と現代の状況について述べる。

### 【授業計画】

講義形式であるが、質問や討議の時間を適宜とりたい。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

特に決めないが参考文献はそれぞれの部分について講義中に指示する。

積極的な態度を望む。

## 国際社会特別講義Ⅱ（国際経済システム論）

秦 忠夫

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

国際間の経済取引は經常取引(財・サービスの貿易取引)と資本取引に大別されるが、いずれの面でも取引の自由化が進み、世界経済は相互依存関係を深めている。しかし、発展段階の異なる多くの国からなる世界経済においては、取引の自由化には不断の政策努力が必要であり、一方で国際取引の進展に伴って発生する諸問題は市場メカニズムに委ねるだけでは解決できず、国際的な政策対応が不可欠である。戦後の世界経済がどのような制度的枠組みのなかで発展し、どのように問題解決への取組みがなされてきたか検討し、将来に向けての課題について考える。

戦後の国際経済システムを担ってきた三つの主要国際機関、すなわち国際通貨基金、世銀グループおよび世界貿易機関（その前身としてのガット）が果たしてきた役割をレビューし、それぞれが抱える今日の課題を検討する形で主題テーマに迫る。

### 【授業計画】

講義が主体となるが質疑応答の時間を十分取り入れた。積極的に議論に参加してもらいたい。

### 【評価方法】

授業への取組み姿勢と期末レポートで評価。

### 【テキスト】

プリントを配付。

### 【参考書籍】

授業の際、適宜紹介。

## 国際社会特別講義Ⅲ（国際関係論）

清水 洋

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

国境を越えた人口移動は、経済だけでなく、社会、文化、政治を含めて現実の国際関係を形成する基本的な要因である。現代アジアを中心に、日本人・華人・南アジア人などの移民の歴史や特徴、民族問題、各国の移民政策、移民受け入れ国・送り出し国への経済的インパクトなどを総合的に検討する。

### 【授業計画】

講義を主体とするが、研究発表・討議も適宜行う。

- 1) 国際労働力移動—理論・歴史・民族問題
- 2) アジアにおける日本人・日系企業の経済活動
- 3) 日本におけるアジア人移民
- 4) アジアにおける華僑・印僑など
- 5) その他

### 【評価方法】

討議への参加度、レポートなどによる評価。

### 【テキスト】

からゆきさんと経済進出—世界経済のなかのシンガポール・日本関係史（清水洋・平川均共著、コモンズ 1998年）

#### <参考文献>

石川友紀著『日本移民の地理学的研究』榕樹書林、1997年。

ス波義信著『華僑』岩波新書、1995年。

綾部恒雄編『国家のなかの民族—東南アジアのエスニシティ』明石書店、1996年。

重松伸司著『国際移動の歴史社会学—近代タミル移民研究』名古屋大学出版会、1999年。

H. Shimizu and H. Hirakawa, *Japan and Singapore in the World Economy*, Routledge, London and New York, 1999.

## 国際社会特別講義Ⅳ（比較教育文化論）

江藤恭二

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

世界における比較国際教育学研究の最近の水準に即しながら、人間形成の比較・国際的接近を試みる。そのさい、文化史的背景に、とくに注目する。

- 1) 「真の意味での近代化」としての産業革命時代の教育と文化
- 2) 世界における「新教育運動」の展開
- 3) 第二次世界大戦後の教育改革の展望
- 4) 近代欧米教育文化と近代日本教育文化との関連と課題

### 【授業計画】

参加者へレポートを課しながら講義を進めていく。

### 【評価方法】

平素のレポートを対象にする。

### 【テキスト】

西洋近代教育史（江藤他編 学文社 2,300円）、『教育史学会紀要』および『日本比較教育学会紀要』を用いる。紀要論文はコピーして配布。

## メディアプロデュース特別講義Ⅰ（ドキュメンタリー番組制作論）

坂元 多

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

映像ドキュメンタリーの形式や内容を映像テクノロジーとの関り合いで考察する。特に機器の発達に伴い、構成のスタイルや音声の形式がどのように変化してきたかを分析し、現在のビデオドキュメンタリーの制作理論を明らかにする。

歴史的なドキュメンタリーのとらえ方をベースに、試作を通じてドキュメンタリーの問題点への理解を深める。

### 【授業計画】

理論に実習を加え、バランスのよいドキュメンタリーへのアプローチを試みる。

### 【評価方法】

制作作品とレポートで評価する。

### 【テキスト】

特になし

## メディアプロデュース特別講義Ⅱ（メディア文化史論）

山田登世子

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

メディアを文化史的に考察し、それをとおして現代社会の特性を考える。

新聞、雑誌、小説、漫画、映画、テレビ、広告、ファッション（流行）など、広くマスコルチャーはさまざまなメディアによって構成されている。

これらのメディアを文化史的に把握する理解力を養う。そのために、メディア文化史の基礎文献（マクルーハン『メディア論』、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』、ジンメル『流行論』など）を講読し、メディア分析のキーコンセプトを学ぶ。

### 【授業計画】

テキスト講読を中心にするが、随時、時事的な教材（プリントなど）も使用する。

学生の発表を中心に授業を進める。

### 【評価方法】

授業の際の発表を平常点として評価し、あわせて期末のレポートも評価の対象とする。

### 【テキスト】

未定。

## メディアプロデュース特別講義Ⅲ（レトリック批評論）

五島幸一

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

レトリック批評とメディア研究との関わりあいについて考察する。とくにメディアを媒介としたメッセージを分析することにより、レトリック批評の理論的枠組を明らかにし、そのメディア分析の有効性について論じる。

レトリック批評理論に関する論文を講読し、その理論的枠組を考察する。また、メッセージ分析に関する実践的研究について考察し、その特質について検討する。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

授業への参加度、および学期末に提出する研究論文にて評価する。

### 【テキスト】

## メディアプロデュース特別講義Ⅳ（教育番組制作論）

大西 誠

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

特定のターゲットオーディエンスに一定の態度変容を期待する映像ソフトである教育番組の制作方法とその制作理論を分析し明らかにする。

以下の視点から実際に放送されている教育番組や「日本賞」コンクールに入賞した優秀番組などをモデルに番組形式を分析するとともに、作品を制作する。

1. 教育番組の歴史
2. 教育番組の企画
3. 教育番組の演出
4. 教育番組の編集
5. 教育番組の評価

### 【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。

### 【評価方法】

作品と小論文（シナリオなど）で評価する。

### 【テキスト】

未定。

## 都市環境デザイン特別講義Ⅰ（居住環境管理論）

吉澤 晋

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

都市における居住の身体的、精神的健康への影響の把握を初めとして、都市環境の構成機構の解明、人間生活との係わり合い、住宅や機器類などのハードとの係わり合いの解明を通じて、計画、管理、改善のための方策を論じる。

1. 健康概念と居住環境
2. 都市居住環境と健康影響
3. 居住環境条件の構成機構
4. 建設と管理・居住の関連
5. 環境的責任の分担
6. 行政・教育・居住者・建設者の課題

### 【授業計画】

プリントを中心に講義を行う。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

未定。

## 都市環境デザイン特別講義Ⅱ（建築保存再生論）

河辺泰宏

1・2年 後期 選択 2単位

### 【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

### 【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、文献講読にあたっては、持ち回りで担当者を決め、準備・報告をする。

- 1) 破壊との闘い  
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念  
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ  
建築におけるサステナビリティ
- 4) 文化財保存の論理  
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究  
日本・イタリア・トルコ・シリアetc.
- 6) 町並み保存の論理  
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究  
ポローニャ・妻籠・長浜・倉敷etc.
- 8) 近代建築保存の論理  
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法  
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究  
神戸・横浜・大阪・京都etc.
- 11) 見学会  
六華苑（旧諸戸邸 桑名市）

### 【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

### 【テキスト】

近代建築物の保存と再生（日本建築学会近畿支部環境保全部会編 都市文化社）

## 都市環境デザイン特別講義Ⅲ（情報化建築論）

吉田邦彦

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化（高度情報化）によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこで生活にどのような影響を与えるかを論じる。

情報化の進展によって大きな変化を受けつつある住居とオフィスを取り上げ、インテリジェント化、マルチメディア化、ネットワーク化によって、建物の機能や構成要素がどのように変化してきたか、今後どのように変化するかを考察する。また、建築の設計や生産の方法に対しても情報化は大きな影響を与え、建築生産情報の統合化が急務となっている。その動向を概観し、今後の方向を探る。

### 【授業計画】

講義によるオーバービューと併せて、下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

### 【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー（ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社）

## 都市環境デザイン特別講義Ⅳ（都市空間デザイン論）

日色真帆

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

場面のデザインという視点から、望ましい都市空間のデザインを、多様な社会、文化、芸術的文脈の中で実現してゆく方法を学ぶ。特に、生活の場面をデザインすることに焦点をあて、スペースブロックとイベントアイコンという手法を用いて、具体的な提案に結びつける。

### 【授業計画】

- ・場面のデザインという視点から、様々なデザイン分野の比較分析。
- ・スペースブロックによる空間表記。
- ・イベントアイコンによる行為や出来事の記号化。
- ・居住環境の様々なデザイン手法の学習。
- ・具体的な生活の場面についての分析とデザイン。

（講義と議論をふまえて、具体的な生活の場面について分析レポートとデザイン的な提案を作成しプレゼンテーションを行う。）

### 【評価方法】

分析レポートとプレゼンテーションによって評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## 地域社会プロジェクトⅢ

谷沢明 河辺泰宏

1・2年 前期 選択 4単位

### 【授業の概要】

人間が自然に対峙し、共存しながら築いてきた多様な生活の様式と内容を把握するとともに、伝統的な生活文化の継承がこれからの地域社会でいかなる意義を持つかを研究する。一定のテーマに基づいたフィールドワークを課し、学生それぞれが調査レポートをまとめ、その報告にもとづき、討議をおこないながら進める。また必要に応じて講義もおこなう。

### 【授業計画】

（谷沢）地方色豊かな伝統的町並みや集落の形成の姿を歴史的に把握することをおして、地域社会における伝統的な生活文化の継承や新たな文化創造の在り方について考察する。

歴史的町並みの保存と整備、歴史的街道の整備、まちづくりと地方自治体の取り組み等について、東海地方を中心とした事例からフィールドを選んで学生自らが調査・研究し、その発表・討議をおこなう。

〔愛知県〕：四間道と白壁町、有松

〔岐阜県〕：高山市、白川村、美濃市、明智町、岩村町

〔三重県〕：関宿、伊勢市

〔長野県〕：奈良井宿、妻籠宿

〔滋賀県〕：近江八幡、五箇荘、長浜

（河辺）地域特性および文化遺産を受け継いだ新しい町づくりの在り方を調査研究し、その意義について居住者の側面から文化史的に考察する。事例研究として半田市の煉瓦造りの建物（旧カプトビール工場）の再生計画を取り上げる。

なお、本プロジェクトは、後期開講の「都市環境プロジェクトⅣ」と連動しておこなう。

### 【評価方法】

課題レポート、発表内容、平生の授業態度により評価。

### 【テキスト】

テキストは使用せず。適宜、資料を配付する。参考文献については授業開始時に紹介する。

## 地域社会プロジェクトⅣ

榊原國城 植村勝彦

1・2年 後期 選択 4単位

### 【授業の概要】

名古屋地域のコミュニティとしての特性を分析するとともに、名古屋圏に住む人々の住民意識・態度の特徴を研究する。

### 【授業計画】

講義、演習、討議の方法を適宜採用し、学生諸君の積極的な参画を前提として進める。

(オムニバス方式)

榊原國城教授

名古屋地域に住む人々の、地域・産業・文化などに対するイメージや態度を分析し、その特徴を明らかにするとともに、当面する課題を検討する。

「コミュニティ心理学研究」に掲載された論文および愛知淑徳大学地域社会研究会の進めてきた調査研究資料を主たる教材として用いる。

植村勝彦兼担教授

名古屋地域に住む人々の、住民同士の連帯意識やコミュニティ意識を探り、その特徴を明らかにし、地域福祉のあり方に代表される、きわめて現代的な課題を展望する。

その際、「コミュニティ心理学」の問題意識、方法を中心に講義を進めていく。

### 【評価方法】

レポート提出を課し、その内容によって評価する。

### 【テキスト】

未定。追って連絡する。

## 国際社会プロジェクトⅢ

藤瀬浩司 秦 忠夫 清水 洋

1・2年 前期 選択 4単位

### 【授業の概要】

新興工業経済群の形成や国際資本移動の増大により国際的分業体制は再編成されつつある。新しい国際分業体制の特徴を歴史的な諸例と対比して明らかにするとともに、国際資本移動と国際的分業体制との連関を検討し、さらにアジアにおける工業化の歴史とその国際経済的環境を研究する。

(藤瀬浩司教授) 19世紀・20世紀の歴史過程に現れた工業化の事例と国際分業体制の考案を通じて、現代の工業化と新しい国際分業体制の特徴を明らかにする。

(秦 忠夫教授) アジアを始め世界の各地で進展している新しい国際分業の編成が現在の国際的金融システムといかなる関連をもち、いかなる問題を生み出しているかを検討する。

(清水 洋教授) アジア地域における国際分業がヒト・モノ・カネのどのような移動のもとで進展したかを歴史的・実証的に研究し、日本の果たしうる役割を明らかにする。

### 【授業計画】

まず3人の担当教師が数回ずつそれぞれの立場からテーマを解説し、共同で検討すべき具体的テーマを提示する。次の段階では、学生はそうしたテーマから自分でもっとも関心のあるものを選んで予備的レポートを作成して報告し、3人の教師と参加学生全員で議論しあう形で共同研究を進める。学生は期末にそれぞれの報告テーマを所定の分量のレポートに仕上げ提出する。

### 【評価方法】

授業への参加態度とレポートで評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考書籍】

授業の際、適宜紹介。

## 国際社会プロジェクトⅣ

仁科浩二郎 森千鶴夫

1・2年 後期 選択 4単位

### 【授業の概要】

アジア経済の拡大は、同時に環境問題と資源問題を伴っている。この状況を明らかにするため、アジアのエネルギー需要とその供給資源に注目する。同時に環境問題の現況を調査し、解決の方向を探る。

### 【授業計画】

学生・教員の討論・対話を通して、当科目でのテーマの展望を見定め、学生が各自設定した課題に沿って調査の検討を行う。

これと平行して、公約数的な文献を取り上げて、講義または輪読を行う。

### 【評価方法】

クラス中での調査結果の発表、討論への参加状況、ならびに最終的レポートで評価する。

## メディアプロデュースプロジェクトⅢ

五島幸一 坂元多

1・2年 前期 選択 4単位

### 【授業の概要】

メディアでは数多くの受け手を納得させる戦略が用いられている。内外のメディアから多くの例証をひきながら表現のレトリックを抽出しその背後の送り手の意図をさぐり出し、表現形式と意図との相関関係を考察する。(五島幸一教授) 米英の新聞雑誌の中から政治的意図をもった報道に焦点をあてて、そこに用いられているレトリックを整理し、メディアにおける表現形式と意味内容との結びつきを明らかにする。(坂元 多教授) 言葉を用いない映像表現にも文法がありレトリックのあることを具体的作品例にもとづいて検証し、映像の表現修辭法によってどのような意志伝達が可能かを映像試作を通して考究する。

### 【授業計画】

問題設定とその解決策をグループによる検討を中心に進める。

### 【評価方法】

授業への参加度、およびレポートにて評価する。

### 【テキスト】

別途指示する。

## メディアプロデュースプロジェクトⅣ

大西 誠 山田登世子

1・2年 後期 選択 4単位

### 【授業の概要】

ふだん日常に接しているニュースや報道、さらにはテレビ番組やドキュメンタリー、映画など、狭義の「メディア」をどう理解するか。あるいはまた、携帯電話からインターネットまで、広義の「メディア・コミュニケーション」をどのように理論的に再認識するか。

このような観点にたって、生活環境としてのメディアを理解する。

### 【授業計画】

上記の授業内容を目的に、ゼミ形式で授業をすすめる。

自分の日常生活で接しているメディアを各自がとりあげ、一定の理論的視点からレポート報告する。この報告について、教員の指導やアドバイスをもとに、出席者全員でコメントし、理解を深める。

指導は大西・山田が共同で担当し、大西は主に報道理解の観点から、山田は主にメディア史論的な観点から指導をおこなう。ただしこの「プロジェクト」科目は学生が受け身的に学ぶ授業ではないので、主体的に参加すること。

### 【評価方法】

授業でのレポート報告を主たる評価の対象とする。場合によって、中間レポートや制作提出、期末のレポートなどを加味する。

### 【テキスト】

必要に応じてメディアの理論書（マクルーハン『メディア論』など）をもちいる。あるいは、テレビや新聞雑誌などのニュース報道や、ドキュメンタリー、等々、生活のなかで接するアクチュアルな資料をもちいる。

### 【参考書籍】

マクルーハン『メディア論』みすず書房

## 都市環境デザインプロジェクトⅢ

日色真帆 加藤義信

1・2年 前期 選択 4単位

### 【授業の概要】

都市環境をわかりやすく魅力あるものとする方策を、空間認知研究の成果をふまえて具体的に探る。名古屋の中の複雑な都市空間を対象とし、調査と分析を行い、さらにデザイン的な提案をまとめ、プレゼンテーションをまとめる。一連のプロセスを経験することで、都市環境の改善活動について具体的に学習する。

### 【授業計画】

- ・都市環境を対象とした空間認知についての講義。
  - ・複雑な都市空間についての事例収集。
  - ・都市空間のデザイン手法についての学習。
  - ・対象とする都市空間の調査と資料収集。
  - ・分析結果の中間発表と教員による講評。
  - ・環境改善についての提案の作成。
  - ・プレゼンテーション手法についての学習。
  - ・プレゼンテーションの作成。
  - ・最終講評会におけるプレゼンテーションと講評。
- ※対象とする都市空間は授業の中で発表する。

### 【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザインプロジェクトⅣ

河辺泰宏 谷沢明

1・2年 後期 選択 4単位

### 【授業の概要】

地域の特色を伝える伝統的町並みや都心部に残る民家や文化的建造物を現代都市の活性化やまちおこしのために利用できる共有の財産として位置付け、いかにしてこれらを有効に再生させ、活用し続けていくか、その具体的手法や問題について実践的に学ぶ。

### 【授業計画】

(河辺) 名古屋市内をはじめ中部地区の諸地域を対象として、一般の木造民家や産業遺構の再利用法について、その事例を調査し、ヨーロッパにおける歴史的、文化的環境保存との比較を通じて、様々な利用可能性について考え、今後の指針となる具体的提案に結び付ける。

授業では、一定のテーマに基づいて考察の対象を特定し、調査やフィールドワークの成果に基づいて再活用の計画案を作成し、あるいは将来的な提案としてまとめる。

(谷沢) 町並み保存運動によって変化した地域住民の実態を調査し、その問題点と今後のあり方について考察する。

### 【評価方法】

課題レポートや発表の内容、授業への参加状況等を考慮して評価する。

### 【テキスト】

使用せず。資料を適宜、配付する。

## 地域社会特別研究Ⅰ

谷口茂

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

地域社会と産業の問題を中心に、地域社会が抱える諸問題を研究する。

地域社会の諸問題を、総合的、実証的に研究するとともに、学生の論文作成について、個別的助言指導を行う。

### 【授業計画】

教員と学生が互いに活発な討論を積み重ねることにより、上掲のテーマの研究を進めたい。

### 【評価方法】

出席状況、討論への参加度などを参考に、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 地域社会特別研究Ⅱ

辻 紘良

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

地域の開発計画や交通問題等の中からカレントな個別問題を取り上げ、その実態や課題を明らかにするとともに、将来の地域づくりの在り方について方策を提言し、その効果を分析評価する。

### 【授業計画】

(個別問題の例)

インターネット通信を利用するカー・プーリングのフィジビリティ・スタディ

インターネットにより簡易に不特定多数者間で対話型通信が可能なことを利用し、通勤・帰宅時に通信ネットワークを形成しカー・プーリングシステムを構築、運用する。このシステムの可能性について、名古屋市の代表的な地域を対象にシミュレーションモデルを構築し、分析を行い本システムの成立可能性評価を行う。研究の実施過程において分析方法や技法を教示するとともに、同時に学生の研究と論文作成に対する個別助言指導を行う。前半は通勤トリップの実態調査やシステム設計が主、後半は具体地域を対象にモデルを作成し分析を行う。これに考察を加え修士論文にまとめる。

### 【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考書籍】

Proceedings of 5th World Congress On Intelligent Transport Systems (ITS98),他

## 地域社会特別研究Ⅲ

谷沢 明

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

地域文化の継承における問題を取り上げ、その分析方法や技法を教示するとともに、同時に学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導をおこなう。なお、フィールドワークを中心とした地域研究をおこなう人を対象とする。

### 【授業計画】

学生の取り上げるテーマに応じて、相談の上決定する。

### 【評価方法】

提出された論文により評価。

### 【テキスト】

テキストは使用せず。参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介する。

## 国際社会特別研究Ⅰ

藤瀬浩司

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

世界経済の構造と発展

20世紀の世界経済の発展を主要テーマとして、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別な助言を行ない、論文作成を指導する。

### 【授業計画】

共通指導に関する部分と個別指導に関する部分にわかれる。それぞれの時間配当は相談のうえ決める。

### 【評価方法】

参加状況と個別研究の進み方で評価する。

### 【テキスト】

なし。

## 国際社会特別研究Ⅱ

清水 洋

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

アジア地域の経済開発・進出日系企業・移民問題などのテーマを取り上げ、討議を通じて基礎理論の充実と進化をはかり、分析の方法を教示し、論文作成の指導をする。

### 【授業計画】

個別指導を行う。

### 【評価方法】

中間報告と論文による評価。

### 【テキスト】

使用せず。

## 国際社会特別研究Ⅲ

秦 忠夫

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

国際経済・金融問題

国際経済・金融問題を採り上げ、研究の方法を教授するとともに、個々の学生の研究に対する助言を行い論文作成を指導する。

### 【授業計画】

個別指導を行う。

### 【評価方法】

論文の評価。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考書籍】

授業の際、適宜紹介。

## メディアプロデュース特別研究Ⅰ

山田登世子

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

マスカルチャーは、新聞、雑誌、小説、漫画、映画、テレビ、広告、ファッション（流行）など、さまざまなメディアによって構成されているが、これらの各種メディアをメディア文化史の観点から分析し、成果を論文にまとめる。

### 【授業計画】

マン・ツー・マン方式の個別論文指導を行う。

### 【評価方法】

最終的に論文を評価の対象とするが、それまでの学習態度も評価の参考とする。また、論文作成をすすめるため、中間報告や中間レポートを課す。

### 【テキスト】

## メディアプロデュース特別研究Ⅱ

五島幸一

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

レトリック批評の観点からメディアを媒介としたメッセージを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的助言を行ない、論文作成を指導する。

論文作成指導。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

授業への参加度、および学期末に提出する研究論文にて評価する。

### 【テキスト】

テキストとしてはありませんが、次のような本を参考にしてください。

論文のレトリック（澤田昭夫著 講談社学術文庫）

論文の書き方（澤田昭夫著 講談社学術文庫）

## メディアプロデュース特別研究Ⅲ

坂元 多

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

テレビ、映画など映像メディアを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行ない、論文作成又は研究成果の結実を指導する。一つの映像メディアからどのような研究テーマが抽出できるか、さまざまなケースを例示し研究の分野、方向をさぐる。

### 【授業計画】

キーとなる講義をベースに質疑など、討議法を加えた進め方をとりたい。

### 【評価方法】

レポート提出によって評価。

### 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン特別研究Ⅰ

吉澤 晋

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

都市における生活環境の改善を主要テーマとして、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別の助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

1. 都市環境の問題点と研究方法
2. 研究指導
3. 論文作成指導

### 【授業計画】

参加する学生の希望と、教員側の指導上の可能性からテーマと研究方法を決定する。

### 【評価方法】

論文による評価。

### 【テキスト】

未定。

## 都市環境デザイン特別研究Ⅱ

仁科浩二郎

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

都市の大気汚染及び個々の有害物質の量を減少させる施策と技術的方法、都市全体の環境改善に向けた施策、およびこれらに必要な基本データの系統化を求めて、論文の作成を進める。

論文作成の為に必要なデータの調査・収集を行うと共に、基本的な汚染メカニズムの理解を進め、地方行政、国、各事業者の役割分担についてもあるべき姿を探る。各種の環境指標を土台として、社会生活の構成員と社会全体のマクロ的な影響をつなぐデータの充実を目指す。一般的参考書として、次を挙げる。

○小野田 博一 『論理的に書く方法』 日本実業出版社（1997年）

### 【授業計画】

論文の対象は広い分野なので、話し合いによって学生と指導側の双方の予備知識に適したテーマを早めに設定し、研究をスタートする。また、院生相互、および学部ゼミ学生との間の連絡、連携も心掛ける。

### 【評価方法】

論文準備段階、論文作成段階など各段階に適した方式で、評価・指摘する。

### 【テキスト】

院生に選定されるテーマによって、随時定める。

## 都市環境デザイン特別研究Ⅲ

吉田邦彦

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

高度情報社会における都市・建築のあり方、都市・建築の歴史的遺産の保全・修復・復元や都市資源としての利活用、都市環境の望ましい形態やデザインの手法等を主要テーマとする。

上記テーマをもとにして、今日の都市・建築におけるさまざまな問題を取り上げて、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別な助言を行い、論文作成または研究成果の結実を指導する。

### 【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による修士論文の進行にあわせて、その折々での調査・検討の結果について共同で議論し、指導する。

### 【評価方法】

提出された論文の内容、形式の水準と、学生の授業中での議論に対する積極性によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 海外実地研修特論

秦 忠夫 清水 洋

2年 通年 選択 4単位

### 【授業の概要】

「アジア社会の発展と日本企業の役割」をテーマとし、アジアの経済成長と進出日系企業の役割、日本企業の活動からみたアジア各国経済・社会の問題点ならびにそれぞれの国の政治・経済・社会からみた日系企業をめぐる問題点などを明らかにする。日系企業については、愛知県に本社のある進出企業を中心とし、進出元と進出先との関連にも注目する。経済・金融問題の指導は秦忠夫、労働・社会問題の指導は清水洋がそれぞれ主として行う。

### 【授業計画】

平成12年度はマレーシア、シンガポールを対象として、事前研修、海外研修、レポート作成の3段階で授業を行う。

#### (1) 事前研修

①集中講義：平成12年7月に1日かけて実施。現地事情、進出企業の活動状況の事前研修とテーマの確認など。

②地元企業訪問：平成12年7月に1日かけて実施。進出企業本社での聴き取り調査。

#### (2) 海外研修

現時点での予定では、平成12年9月3日（日）から9日（土）までの1週間。進出日系企業、官公庁、教育機関などを訪問し、聴き取り調査、資料収集などを行う。

#### (3) レポート作成

帰国後1カ月以内に「アジア社会の発展と日系企業の役割」をテーマとしてレポートを提出。

### 【評価方法】

授業への取り組み態度とレポートで評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考書籍】

授業の際、適宜紹介。

## 主題講義

吉澤 晋 仁科浩二郎

集中 1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

現代社会の抱える深刻な問題として、特に都市の環境問題を取り上げる。その現状をエネルギー供給・消費の増大、並びに消費生活変化との関連で整理し、市民の居住環境への影響を量的に評価する。

エネルギー消費の増加を含む様々の消費生活変化に伴い、各種の環境問題が現在どのように発生して、都市生活の居住空間に影響を与えつつあるかを明らかにし、現代社会の課題として解決の手段を探る。

参考資料として例えば次がある。

1. 『環境白書』（環境庁、各年度）〔総説編〕、〔各論編〕
2. 『名古屋環境白書』（名古屋市、各年度）、〔総説編と資料編〕
3. 『どうなる地球、どうする21世紀』環境庁編（1997年）

### 【授業計画】

数人の講師による集中講義の形態を取る。まず集中講義全体の構成について説明を行い（吉澤、仁科）、次に地域環境行政、並びに環境評価研究者・技術者がそれぞれの立場でこの問題の捉え方を紹介し検討する。纏めとして、全講師参加の形（パネル形式など）で質疑・討論を行い、最後に総括を行う（吉澤、仁科）。

### 【評価方法】

上記の討論で抽出・提示される課題を含めて、この問題に関する全体的な展望と意見をレポートで述べることを求める。これをもとに成績を評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。参考資料は【授業の概要】欄参照。

## 国際理解教育 I

小木曾通男

1・2年 前期 選択 2単位

### 【授業の概要】

開国の実現によって鎖国時代の閉鎖社会から、急速かつ広範な外国文明の積極的な受容社会への変換によって、近代日本の発展がはじまった。

幕末から明治維新にかけて、西洋の進んだ技術文明がどのような教育的経路をたどって日本に導入されたかを視点から学習する。

1. 幕府の日本近代化政策と日本近代化に及ぼした教育的な効果について次の点を中心にして学習する。

- (1) 幕府の海外使節団派遣
- (2) 幕府派遣、各藩派遣、密航留学生
- (3) 洋学、技術伝習

2. 明治新政府発足と外国文明の積極的な受容のための教育政策について次の点を中心にして学習する。

- (1) 岩倉米欧使節団をはじめとする海外視察団の派遣
- (2) 大学南校の貢進生制度と外国語教育
- (3) 東京師範学校の設置と日本の近代教育の出発
- (4) 高等教育機関の設置とお雇い外国人教員の雇用
- (5) 明治期の海外留学制度の整備と日本の教育の発展
- (6) 明治期における技術導入と伝習生の海外派遣

### 【評価方法】

発表及び課題レポートによる。

### 【テキスト】

国際理解教育論講義概要 300円

### 【参考書籍】

特に指定しないが参考文献は授業において指示する。

## 異文化コミュニケーション特講4a・b (異文化教育)

霜田一敏

1・2年 前・後期 選択 各2単位

### 【授業の概要】

今日の世界の紛争は、人種差別や民族差別、宗教の違いに根を置くものが多い。同じ国のなかでも民族間の差別や対立、人種や宗教の違いが国を割ることへも発展する。少数と多数の民族、先住民と移住してきた民族かつて征服されて連れてこられた民族、難民や働き場を求めて移住した民族など、さまざまな形で違った言語文化を持った人達が同じ国のなかで共存していることがどこの国でも見られるようになってきた。そこでは歴史的宗教的背景からくる紛争もあろうし、経済的な利害からくる紛争もある。いずれも早急に解決しなければならない21世紀の課題である。この問題を教育学の観点から解決の方途を考究する。

前年度の講義の反省に基づくオリエンテーションを講義の導入にし、学生からの関心と問題意識を重視した次のような問題について研究する。

1. 日本のなかでの多様化・多文化の問題
2. アメリカの人種差別の歴史と文化的同化の問題
3. 英国の植民地からの移住民と文化的同化の問題
4. フランスの人種差別の歴史と文化的同化の問題
5. ドイツへの移民の実態と同化政策と排他運動
6. オーストラリアへの移民の歴史と先住民政策の問題
7. イランの宗教による文化的同化（イスラム化）と多文化教育
8. 中国の多民族共存の政策
9. その他学生の取り上げたい国の民族問題や多文化教育を検討する。

### 【授業計画】

受講生の関心や専門に応じて、世界のなかから一国を選択してテーマ設定を図り、その個人研究と発表に基づき集団討議を行う。受講者のレポートとテキストの講読によって授業を進める。

### 【評価方法】

授業のなかで行う講義への参加度や積極度、個人研究のレポートとその発表、更に最終段階での総括によって評価を行う。

下記の科目は、本年度開講しません。

## 地域社会プロジェクトⅠ

谷口茂 他

## 地域社会プロジェクトⅡ

竹村弘 他

## 国際社会プロジェクトⅠ

藤瀬浩司 他

## 国際社会プロジェクトⅡ

西尾林太郎 他

## メディアプロデュースプロジェクトⅠ

坂元多 他

## メディアプロデュースプロジェクトⅡ

山田登世子 他

## 都市環境デザインプロジェクトⅠ

吉澤晋 他

## 都市環境デザインプロジェクトⅡ

仁科浩二郎 他

## 国際理解教育Ⅱ

小木曾通男

## Intensive English 2000

デイビッド・C. ダイカス ポール・ルイス ポール・C. リンガー ジョアン・M. ウッドマン

デイビッド・レヴィ ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス

2～4年 前・後期 選択 各2単位

### 【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

### 【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- \* ATTENDANCE
- \* CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- \* HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- \* END OF SEMESTER REPORT

### 【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.